



Plesk 8.2 for Linux/UNIX

クライアントガイド

Plesk for UNIX 著作権表示

ISBN: N/A

SWsoft

13755 Sunrise Valley Drive

Suite 325

Herndon

VA 20171 USA

電話番号: +1 (703) 815 5670

ファックス: +1 (703) 815 5675

Copyright © 1999-2007 by SWsoft. All rights reserved

著作権保有者による書面による事前の許可なしに、いかなる形式によっても本書またはその派生物を配布することを一切禁じます。

特許を取得したホスティング技術は、アメリカ合衆国の特許番号7,099,948および7,076,633により保護されます。

アメリカ合衆国において特許出願中です。

LinuxはLinus Torvaldsの登録商標です。

ASPLinuxおよびASPLinuxロゴはSWsoftの登録商標です。

RedHatはRed Hat Software, Inc.の登録商標です。

SolarisはSun Microsystems, Inc.の登録商標です。

X Window SystemはX Consortium, Inc.の登録商標です。

UNIXはThe Open Groupの登録商標です。

Intel、Pentium、CeleronはIntel Corporationの登録商標です。

MS Windows、Windows 2003 Server、Windows XP、Windows 2000、Windows NT、Windows 98、Windows 95はMicrosoft Corporationの登録商標です。

IBM DB2はInternational Business Machines Corp.の登録商標です。

SSHおよびSecure ShellはSSH Communications Security, Inc.の登録商標です。

MegaRAIDはAmerican Megatrends, Inc.の登録商標です。

PowerEdgeはDell Computer Corporationの登録商標です。

Request TrackerはBest Practical Solutions, LLCの商標です。

その他すべての商標および著作権はそれぞれの権利保有者に帰属します。

目次

Plesk for UNIX 著作権表示	2
<hr/>	
序文	8
対象読者	8
フォント規則	8
フィードバック	9
<hr/>	
はじめに	10
Plesk にログインする.....	11
パスワードを忘れた場合.....	11
Plesk のインターフェースに慣れる	12
デスクトップ表示の項目	13
標準表示の項目	14
連絡先情報とパスワードの変更.....	14
<hr/>	
コントロールパネルのカスタマイズ	15
標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ	16
コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定.....	16
カスタムロゴの設定	16
コントロールパネルへのハイパーリンクボタンの追加.....	17
コントロールパネルからのハイパーリンクボタンの削除.....	18
標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ	19
<hr/>	
ホスティングに含まれるリソース割り当てとホスティング機能の表示	21
ホスティングパッケージに含まれる IP アドレスの表示	21
アカウントのリソース割り当ての表示	22
コントロールパネルで実行できる操作リストの表示	24
<hr/>	
ドメインテンプレートを使用したホスティングプランの実装	26
テンプレートの作成	26
テンプレートの変更	31
テンプレートの削除	31
<hr/>	
Web サイトのホスティング	32
新規 Web サイトのコンテンツの事前定義.....	32
ドメイン名の取得.....	34
Web サイトのホスティングアカウントの設定	36
1つのサイトで消費可能なリソースの量の制限	39

サイトのオーナーにコントロールパネルへのログインを許可する	42
サイトの公開	44
FTP 経由でのファイルのアップロード	44
Plesk ファイルマネージャ経由でのファイルのアップロード	45
SSH 接続によるサイトのアップロード	46
Microsoft FrontPage を使用して公開	46
Adobe Dreamweaver からのサイトの公開	50
サイトのプレビュー	51
データベースの配置	52
データベースの作成またはインポート	52
データベースユーザアカウントの作成	53
データベースユーザパスワードの変更	54
データベースユーザアカウントの削除	54
データベースの削除	54
アプリケーションのインストール	55
Java Web アプリケーションのインストール	56
Ruby Web アプリケーションのインストール	58
SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護	59
SSL 証明書をジオトラスト社から入手してインストール	59
SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール	61
無料の自己署名 SSL 証明書の作成とインストール	63
証明書をサイトからアンインストール	64
パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限	64
リソースの保護	65
許可されたユーザの指定	66
リソースの非保護	67
サブドメインを含むサイト構造の編成	67
サブドメインの設定	68
サブドメインの削除	69
サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス)	70
ドメインエイリアスの設定	70
ドメインエイリアスのプロパティの修正	71
ドメインエイリアスの削除	72
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング	73
Web ページオーナーの FTP パスワードの変更	74
Web ページオーナーへのディスク容量の割り当ての増加	74
Web ページオーナーのアカウントの削除	75
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定	76
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ	78
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ	79
リソースレコードの表示	79
リソースレコードの追加	80
リソースレコードの変更	81
リソースレコードの削除	82
元のゾーン設定の復元	82
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給	83
他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用 (ドメイン転送)	85
ドメインの保留と保留解除	86
ドメインの削除	86

ホスティングアカウントのアップグレード	87
ホスティングアカウントの更新	90
Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更	91
多数のホスティングアカウントへの類似の変更の実行	92
ホスティングアカウントの保留と保留解除	93
ホスティングアカウントの削除	93

統計の表示 94

Webalizer による Web 統計表示の選択設定の調整	96
自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示	97
他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除	98
ダイレクトリクエストの表示と非表示	99
レポート生成とメールによる配信の自動化	100
ログファイルの表示とログファイルの再利用の設定	102

データのバックアップと復元 103

FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定	103
ドメインを含むアカウントのバックアップ	105
個別ドメイン (Web サイト) のバックアップ	106
バックアップのスケジューリング	106
バックアップアーカイブからのデータの復元	109
バックアップファイルレポジトリの維持	110
バックアップファイルのサーバへのアップロード	110
サーバからのバックアップファイルのダウンロード	110
サーバからのバックアップファイルの削除	111

メールサービスの使用 112

メールボックスの作成	113
メールボックスからメールを取得するためのメールプログラムの設定	115
Web ブラウザからのメールへのアクセス	117
スパムからのメールボックスの保護	118
補足的ディスポーザブルメールアドレス (メールエイリアス) の設定	118
スパムフィルタのセットアップ	119
ウイルスからのメールボックスの保護	123
アンチウイルス保護の有効化	124
アンチウイルス保護の無効化	124
メールボックスの保留と保留解除	125
メールボックスの削除	126
アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスのオフ切り替え	126
単一メールアドレスへのメール転送の設定	127
メールフォワーダの保留と保留解除	128
複数メールアドレスへのメール転送の設定	129
受信者アドレスの追加と削除	130
複数メールアドレスへのメール転送の無効化	131
メールフォワーダの削除	131
自動応答の設定	132
自動応答の無効化	134
存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位の選択設定 (メール転送)	135

複数のメールアカウントへの類似変更の同時処理の導入	136
メーリングリストの維持	137
メーリングリストのセットアップ	138
メーリングリストの設定	138
ユーザの登録と登録解除	139
メーリングリストへの投稿	140
メーリングリストの削除	140

タスクのスケジューリング 141

タスクをスケジューリングするには	141
タスク実行の保留と再開	142
タスクのスケジューリング解除	143

コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニタリング 144

FTP サービスへの接続のモニタリング	144
コントロールパネルへの接続のモニタリング	145

ヘルプデスクを使用した顧客の問題解決およびプロバイダへのサポート要求 146

ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示	147
トラブルチケットへのコメントとクローズ	148
サービスプロバイダへの問題レポートの提出	148

章 1

序文

対象読者

このガイドは、Plesk コントロールパネルを通して共通または専用またはリセラーホスティングのパッケージサーバへアクセスできる、複数ドメインのホスティングリセラーおよびオーナーを対象としています。

フォント規則

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

フォント	意味	例
特殊太字	メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、選択する必要のある項目。	[QoS]タブに進みます。
	章、セクション、サブセクションのタイトル。	「 基本管理 」の章をご参照ください。
斜体	初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダーの指定などの、重要な箇所を強調。	これらは共用 VPS と呼ばれています。 msiexec /i <前述の *.msi ファイル名または GUID>
固定幅	スタイルシートセレクタの名前、ファイルおよびディレクトリ、CSS フラグメント。	Plesk を「c:\plesk bin」ディレクトリにインストールします。
書式設定済み	コマンドラインセッションでのコンピュータ画面上への出力、ログ、XML や C++ やその他のプログラミング言語のソースコード。	05:31:49 Success. Admin John Smith was added.
書式設定済み太字	入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。	# cd /root/rpms/php

フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、sales@swsoft.co.jp宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしてくださいませようお願い致します。

章 2

はじめに

Plesk はコントロールパネルソフトウェアであり、共用ホスティングサービスの再販や自分のドメイン名や Web サイトのホスティングに使用します。

ドメイン名や Web サイトを自分で管理したり、個々のドメインを他のユーザが管理できるように権限を委託することができます。委託の際には個別のドメイン管理者コントロールパネルが自動的に作成され、定義した権限に応じてサイトおよびメール管理の機能が提供されます。

ドメイン管理者コントロールパネルを使用して、サイトオーナーは以下の操作を実行できます。

- FTP 経由のコントロールパネルへのアクセスや Web スペースに対するパスワードの変更
- Web サイトの発行および閲覧
- データベースおよび Web アプリケーションのインストール、管理、削除
- オンライン取引保護のため SSL 証明書の注文およびインストール（他の Web サイトと共用でない、専用 IP アドレスでホストされた Web サイトにのみ可能）
- サブドメインの設定、管理、削除
- 他のユーザのパーソナル Web ページのホスティング
- Web サイトのパスワード保護
- Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ
- Web サイトをデータベースおよびアプリケーションごとバックアップおよび復元
- 自動バックアップのスケジューリング
- メールボックスの作成、編集、削除、およびスパムやウイルスからの保護
- メールボックスオーナーに対する個々のメール管理パネルへのアクセス許可（メールホスティング業務を行ったり、他のユーザのメールボックスを作成するときなどに）
- メールフォワーダの作成、編集、削除、および自動応答
- メールリングリストの作成、編集、削除、およびユーザの登録と登録解除

上記の機能へはご自分のコントロールパネルからアクセスできますので、ドメイン管理者コントロールパネルやメール管理者コントロールパネルを使用する必要はありません。

ドメイン管理者コントロールパネルについての詳細は「ドメイン管理者ガイド」をご参照ください。

Plesk にログインする

➤ *Plesk コントロールパネルにログインするには、以下を実行してください。*

- 1 Webブラウザを開き、アドレスバーにPleskコントロールパネルの配置されているURLを入力します。

例えば<https://your-domain.com:8443>では、your-domain.com の部分が Web ホストのドメイン名となります。

- 2 ENTERを押します。 Pleskログイン画面が開きます。
- 3 [ログイン] ボックスと [パスワード] ボックスに、プロバイダーから与えられたログイン名とパスワードをそれぞれ入力します。
- 4 初めてログインする場合、コントロールパネルで使用する言語を [インターフェイス言語] ドロップダウンボックスで選択します。以前にインターフェイス言語を指定しインターフェイス選択設定に保存している場合は、 [ユーザデフォルト] を選択したままにします。
- 5 [ログイン] をクリックします。

注 (ホスティングリセラーへ) : 顧客が自分の Web サイトを管理するためにコントロールパネルへのアクセスを許可されてこの操作を行っている場合、 [ログイン] ボックスに顧客のドメイン名を指定する必要があります。

パスワードを忘れた場合

➤ *忘れたパスワードを復元するには以下を実行してください。*

- 1 WebブラウザのアドレスバーにPleskコントロールパネルが配置されているURL (例 : <https://your.domain.com:8443>) を入力します。

- 2 ENTERを押します。

Plesk ログイン画面が開きます。

- 3 [パスワードをお忘れですか?] リンクをクリックします。

- 4 ログイン名を [ログイン] ボックスに、システムに登録されているメールアドレスを [メールアドレス] ボックスにそれぞれ入力します。

- 5 [OK] をクリックします。

パスワードがメールアドレスに送られます。

Plesk のインターフェースに慣れる

コントロールパネルにログインすると、標準表示または簡略化されたデスクトップ表示あるいはこの2つの組み合わせで画面が開きます。標準表示はコントロールパネルが2つのメインエリアを持つ従来どおりの表示方法です。ナビゲーションペインが左側、操作が実行されるメイン画面が右側にあります。

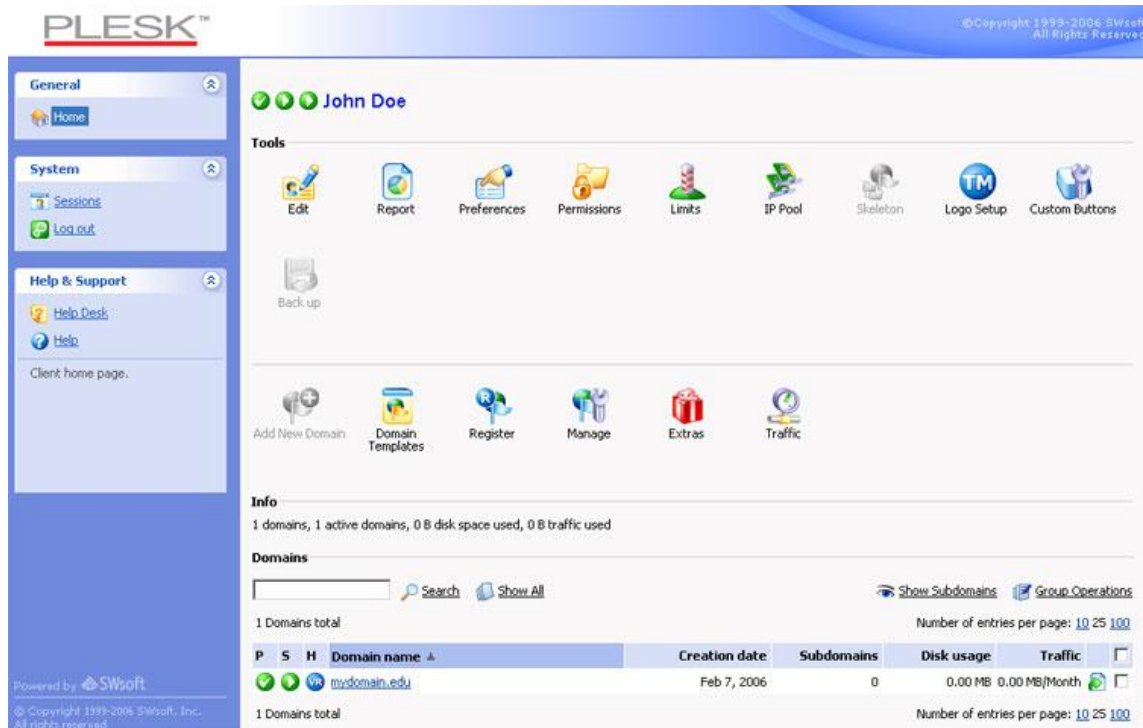


図 1: 標準Plesk インターフェース


デスクトップ表示はサーバ統計値や使用頻度の高い操作へのショートカットが表示され、必要な項目すべてが1つの画面に表示されます。



図2: デスクトップインターフェース

デスクトップ表示の項目

デスクトップ表示には最初に以下の3つのセクションがあります。

- **ツール。** このグループはコントロールパネルを通して実行できるオペレーションへのショートカットを表示します。これらのショートカットは自由に追加したり削除したりできます。
- **統計。** アカウント下のドメインの数、ディスク容量および毎月の帯域幅使用量、ホストされているドメインのメールボックスの数を表示します。
- **お気に入り。** このグループは種類別に4つのショートカットに分けられ、それぞれのタブに配置されています。【ドメイン】タブはお気に入りのドメインへのショートカットを表示します。【メール名】タブはお気に入りのメールアカウントへのショートカットを表示します。【ショートカット】タブはドメインおよびメールユーザーアカウント関連以外の全ての種類のショートカットを表示します。【履歴】タブは過去10回までに使用されたコントロールパネル画面を表示します。【お気に入り】グループはドメインおよびメールアカウントを検索するツールも提供します。検索ツールを使用するには、検索基準（どんな記号や文字の組み合わせでも大丈夫であり、大文字と小文字は区別されません）を入力し、【検索】をクリックします。

デスクトップ表示によるコントロールパネルのカスタマイズを行うには、「デスクトップ表示によるコントロールパネルのカスタマイズ」『ページ数19』セクションをご参照ください。

ウィザードの使用


デスクトップ表示で Plesk を使用する際、ウィザードの使用が必要なタスクがあります。それぞれのウィザードは一連の画面より成ります。ウィザードを使用してタスクを実行するには、ウィザード画面に表示される指示に従います。個別のオプションについては、このガイドのそれぞれのセクションを参照してください。

標準表示の項目

ナビゲーションペインが左側に表示されます。様々な管理機能にアクセスできます。

- **ホーム。** アカウントに関する設定を変更したり、Web サイトおよびメールサービスの管理をします。
- **セッション。** サイトおよびメールボックスのオーナーがコントロールパネルにログイン、または FTP プロトコルを通してサーバに接続した際に、管理者が監視および強制終了できるセッションを設置できます。
- **ヘルプデスク。** コントロールパネルと統合されたヘルプデスクシステムです。プロバイダがこれを使用していると、問題が起こった場合にプロバイダのテクニカルサポートスタッフにレポートできます。
- **ヘルプ。** コンテキストヘルプを提供します。
- **ログアウト。** コントロールパネルでの作業が終了したら、このアイコンをクリックしセッションを閉じます。

[ヘルプ] アイコンの下にはコンテキストヘルプヒントエリアがあります。ここでは現在の画面の説明や操作可能なオペレーションの概略が表示されます。マウスポインタをシステムの要素や状態アイコンの上に持ってくると、追加的な情報が表示されます。

Plesk のナビゲートにはパスバーを使用することもできます。画面右側のバナーエリアの下に一連のリンクが表示されます。前の画面に戻るには、画面右上の  [上へ] アイコンを使用します。

長いリストから項目を見つけたい場合は、すべての項目リストの上にある検索ボックスを使用します。入力ボックスに検索基準を入力し [検索] をクリックします。検索条件にマッチする項目のリストが表示されます。全ての項目の表示に戻るには [全て表示] をクリックします。

特定のパラメータでリストを昇順または降順に並べ替えるには、カラムのヘッダ部分のパラメータ名をクリックします。パラメータタイトルの隣の小さな三角印は並び順を表します。

連絡先情報とパスワードの変更

➤ **連絡先情報を更新もしくはパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページで [ツール] グループの [編集] をクリックします。

- 2 必要に応じて情報を更新もしくは新しいパスワードをパスワードを入力して、[OK] をクリックします。
- パスワードを忘れた場合は、以下の操作を実行して下さい。
- 1 Webブラウザのアドレスバーに、Pleskコントロールパネルの配置されているURLを入力します。
 - 2 例えば、<https://your-server.com:8443>となります。
 - 3 ENTERを押します。 Pleskログイン画面が開きます。
 - 4 [パスワードをお忘れですか?] リンクをクリックします。
 - 5 ログイン名を [ログイン] ボックスに、システムに登録されているメールアドレスを [メールアドレス] ボックスにそれぞれ入力し [OK] をクリックします。

コントロールパネルのカスタマイズ

パスワードがメールアドレスに送られます。

標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ

コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定

コントロールパネルのインターフェース言語とテーマ（スキン）を選択するには以下の操作を実行して下さい。

- 1 ホームページで [ツール] グループの [選択設定] アイコンをクリックします。
- 2 希望のインターフェース言語およびスキンをそれぞれのドロップダウンボックスから選択します。

Plesk のインターフェースは多くの言語に翻訳されていますので、ご希望の言語がリストにない場合はそのランゲージパックをインストールをプロバイダーにご依頼ください。

- 3 [OK] をクリックします。

カスタムロゴの設定

➤ **顧客が Plesk コントロールパネルにログインしたときに表示されるカスタムロゴイメージを設定するには以下を実行してください。**

- 1 ホームページで [ブランディング] をクリックします。
- 2 [参照...] をクリックして、ご自分のローカルコンピューターにある設定したいイメージへ進みます。

イメージは高さ 50 ピクセルで、GIF または JPEG または PNG 形式であり、ダウンロード時間を最小限にするため 100 キロバイト以下であることをお奨めします。

- 3 ログイメージにハイパーリンクを添付するには、その URL を [ロゴの URL を入力] ボックスに入力してください。
- 4 [OK] をクリックして情報を送信します。

➤ **Plesk ログイメージに戻すには以下を実行します。**

- 1 ホームページで [ブランディング] をクリックします。
- 2 [デフォルトロゴ] をクリックします。




コントロールパネルへのハイパーリンクボタンの追加


- Plesk コントロールパネルにカスタムハイパーリンクボタンの追加して、顧客が自分のコントロールパネルからそれを見ることができかどうかを指定するには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [ツール] グループの [カスタムボタン] アイコンをクリックします。
 - 2 [新しいボタンの追加] をクリックします。
 - 3 以下を実行してボタンのプロパティを指定します。
 - [ボタンラベル] フィールドに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。ホームページの右フレームに貼付するには [ロケーション] ドロップダウンボックスから [クライアントホームページ] 値を選択します。各ドメイン管理画面 ([ホーム] > [ドメイン名]) に貼付するには、 [ドメイン管理ページ] 値を選択します。ホームページの左フレーム (ナビゲーションペイン) に貼付するには [ナビゲーションペイン] 値をクリックします。
 - ボタンの優先度を指定します。Plesk は定義した優先度に従ってコントロールパネル上のカスタムボタンを配置します。数字が小さいほど優先度が高くなります。ボタンは左から右へ並べられます。
 - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、 [参照] をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお奨めします。
 - [URL] ボックスにボタンに付加するハイパーリンクを入力します。
 - チェックボックスを使用し、URL にドメイン名、FTP ログイン、FTP パスワード、他の転送するデータを含めるかどうか指定します。こ これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
 - [コンテキストヘルプヒントコンテンツ] 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
 - 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、 [コントロールパネルの中に URL を開く] チェックボックスをチェックして下さい。このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くこととなります。
 - このボタンをコントロールパネルにアクセスしているメールボックスユーザからも見えるようにするには、 [全てのサブログインに表示] チェックボックスをチェックします。
 - 4 作成を完了したら [OK] をクリックします。

コントロールパネルからのハイパーリンクボタンの削除

- コントロールパネルからハイパーリンクボタンを削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [ツール] グループの [カスタムボタン] アイコンをクリックします。
- 2 削除するボタンに対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] アイコンをクリックします。

標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ

- デスクトップから項目を追加または削除するには以下を実行します。
 - 1 [デスクトップ] >  [デスクトップをカスタマイズ] に進みます。
 - 2 [ツール] グループで、コントロールパネルから実行したいタスクを指定します。デスクトップに適切なショートカットが配置されます。[選択したタスク] リストはどのショートカットが既にデスクトップに配置されているを示します。[使用可能なタスク] リストはデスクトップにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - デスクトップにショートカットを追加するには、[使用可能なタスク] リストで必要なタスクを選択し [追加 >>] をクリックします。
 - デスクトップからショートカットを削除するには、[選択したタスク] リストから必要のないタスクを選択し [<< 除] をクリックします。
 - 3 デスクトップでカスタムボタンを表示するには、[カスタムボタン] チェックボックスを選択します。
 - 4 デスクトップの一番下に新規のカスタムハイパーリンクボタンを作成するショートカットを表示するには、[新規ドメインカスタムボタンの作成] チェックボックスを選択します。
 - 5 [統計] および [お気に入り] グループを表示するかどうかと、そこに何の項目を表示するかを指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。[お気に入り] グループは項目へのリンクやデスクトップに追加されたコントロールパネル画面を示します。それぞれのコントロールパネル画面で  [ショートカットの作成] または  [お気に入りに追加] アイコンをクリックして選択した項目が、このグループに含まれます。
 - 6 [OK] をクリックします。

- デスクトップの [お気に入り] グループにドメインを追加するには以下を実行します。
 - 1 ホームページで、お気に入りに追加したいドメイン名をクリックします。
 - 2 画面右上隅の  [お気に入りに追加] アイコンをクリックします。
 - 3 デスクトップショートカットラベルとその説明を指定します。
 - 4 [OK] をクリックします。

- デスクトップの [お気に入り] グループにメールアカウントを追加するには以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 お気に入りに追加したいメールアドレスをクリックします。
- 4 画面右上隅の★ [お気に入りに追加] アイコンをクリックします。
- 5 デスクトップショートカットラベルとその説明を指定します。
- 6 [OK] をクリックします。

➤ **デスクトップの [お気に入り] グループに項目を追加するには以下を実行します。**

- 1 必要なコントロールパネル画面に進みます。
- 2 画面右上隅の📁 [ショートカットの作成] アイコンをクリックします。
- 3 デスクトップショートカットラベルとその説明を指定します。
- 4 [OK] をクリックします。

➤ **デスクトップの [お気に入り] グループから項目を削除するには以下を実行します。**

- 1 デスクトップ上で削除したいショートカットをクリックします。
- 2 画面右上隅の✏️ [お気に入りの編集] アイコンをクリックします。
- 3 [削除] をクリックします。

または





- 1 デスクトップ上で削除したいショートカットをに対応する🗑️ アイコンをクリックします。
- 2 [削除] をクリックします。

章 3

ホスティングに含まれるリソース割り当てとホスティング機能の表示

ホスティングパッケージに含まれる IP アドレスの表示

ホスティングパッケージに含まれる IP アドレスを表示するには、ホームページで [IP プール] をクリックしてください。IP アドレスがリストと以下の補足情報が表示されます。



- IP アドレスがネットワークインターフェースで正しく設定されている場合、[S] (ステータス) 列のアイコンに  が表示されます。IP アドレスがプロバイダによってネットワークインターフェースから削除されると、アイコンは  を表示します。
- T(Type)列のアイコンは  専用の IP アドレスを割り当てられているか、そして  そのアドレスがサービスプロバイダの他の顧客と共用になっていないかどうかを表示します。専用 IP アドレスは他のユーザによって使用されることはないので、ホストにも使用することができます。
 - Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化で保護された単独の E-コマース Web サイトや、
または
 - Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を必要としない複数の Web サイトです。

注： 共用 IP アドレスによるホスティングは E-コマースを行わない Web サイトだけが対象となります。

-
- [証明書] カラムはどのドメイン名のどの SSL 証明書が IP アドレスに関連しているのかを表します。詳細は「Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護」セクションをご参照ください。
 - [SSL 経由の FTP] カラムは、この IP が専用の場合に、この IP 上でホスティングしているドメインでセキュアな FTP 接続 (SSL 経由の FTP) の使用が可能かどうかを表します。IP アドレスで SSL 経由の FTP を有効にするには、[SSL 経由の FTP] カラムで必要な IP アドレスに対応するチェックボックスを選択します。
 - [ホスティング]カラムは IP アドレスがホストする Web サイトの数を表示します。その Web サイトのドメイン名を表示するには [ホスティング] カラム内の数をクリックしてください。

アカウントのリソース割り当ての表示

アカウントのリソース割り当てを表示するには、ホームページで【制限】アイコンをクリックしてください。リソース割り当てが以下のように表示されます。

- **ドメインの上限数。** サーバ上でホストできるドメイン数および Web サイトの総数です。このサーバでホストする Web サイト、および、他のサーバでホストされている Web サイトを示すドメインフォワーダが含まれます。ドメインエイリアス（このサーバでホストされるサイトの追加ドメイン名）はこのリソースタイプでは制限されません。
- **サブドメインの上限数。** サイトでホスト可能なサブドメインの総数です。
- **ドメインエイリアスの上限数。** サイトで使用できる追加の代替ドメイン名の総数です。
- **ディスク容量。** Web サイトや顧客のサイトで占有できるディスク容量の総量をメガバイトで表示します。全てのドメインおよび Web サイトに関連する全てのファイルが占有するディスク容量が含まれます。Web サイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。超過すると、ドメイン名や Web サイトは自動的に停止されることはなく、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ホームページの右側フレーム上部をご参照ください）。
- **トラフィックの上限量。** 一ヶ月間に Web サイトから転送可能なデータの総量です。制限量に達すると、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ホームページの右側フレーム上部をご参照ください）。
- **Web ユーザの上限数。** ご自身や顧客が他のユーザにホストできるパーソナル Web ページの総数です。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。詳細は「Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング」セクションを参照してください。
- **データベースの上限数** サイトでホスト可能なデータベースの総数です。
- **メールボックスの上限数。** サイトでホスト可能なメールボックスの総数です。
- **メールボックスクォータ。** 各メールボックスの割り当て可能なディスク容量の制限量がキロバイトで表示されます。
- **メールフォワーダの上限数** サーバで設定可能なメールメールフォワーダの総数です。
- **メール自動応答の上限数。** サーバで設定可能なメール自動応答の総数です。
- **メールリングリストの上限数。** サイトでホスト可能なメールリングリストの総数です。メールリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。使用したいにもかかわらずインストールされていない場合にはプロバイダにインストールを依頼してください。

- **Java アプリケーションの上限数。** サイトでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数です。
- **有効期間。** ホスティングまたはリセラーアカウントの期間です。期間が終了するとドメインおよび Web サイトは保留され、その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。

コントロールパネルで実行できる操作リストの表示

コントロールパネルで実行できる操作リストは、ホームページで【権限】アイコンをクリックすると表示されます。操作権限のリストを以下に記述します。

- **ドメイン作成。** サーバで新規ドメインおよび Web サイトをホストできるかどうかを示します。
- **物理ホスティング管理。** Web サイトでホスティングアカウントを完全に管理できるかどうかを示します。No となっていれば、Web スペースにアクセスするための FTP パスワードの変更のみできます。
- **PHP セーフモード管理。** サイトの PHP セーフモードを無効にできるかどうかを示します。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するように設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。Web アプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はセーフモードをオフに切り替えてください（またはプロバイダにその旨依頼してください）。それには、ホスティングアカウントプロパティで [PHP 'safe_mode' on] チェックボックスの選択を外します（[ホスティング] グループで [ホーム] > [ドメイン名] > [設定] アイコン）。
- **サーバへの Shell アクセスの管理** サーバ Shell へアクセスして他のユーザにその許可を与えることができるかどうかを示します。
- **ハードディスククォータ割り当て。** サイトに割り当てられたディスクスペースにハードディスククォータを設定できるかどうかを示します。
- **サブドメイン管理。** サブドメインを設定、変更、削除できるかどうかを示します。
- **ドメインエイリアスの管理。** Web サイトの代替ドメイン名を追加設定できるかどうかを示します。
- **ログローテーション管理。** サイトのログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを示します。
- **匿名 FTP 管理。** 全てのユーザがログインとパスワードを入力せずにファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを持つことができるかどうかを示します。匿名 FTP サービスを使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **タスクのスケジューリング。** システム内のタスクをスケジュールできるかどうかを示します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **DNS ゾーン管理。** ドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを示します。
- **Java アプリケーション管理** Web サイトに Java アプリケーションおよび Java アプレットをインストールできるかどうかを示します。

- **メーリングリスト管理** GNU Mailman ソフトウェアで提供されるメーリングリストを使用できるかどうかを示します。
- **スパムフィルタ管理。** SpamAssassin ソフトウェアが提供するスパムフィルタを使用できるかどうかを示します。
- **アンチウイルス管理。** 送受信メールのフィルタ処理のために、サーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを示します。
- **バックアップと復元機能** コントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを示します。定期的なバックアップおよびオンデマンドのバックアップの両方に対応しています。
- **ユーザインターフェース。** 使用できるユーザインターフェースのタイプ(標準、デスクトップ、または両方)を示します。
- **デスクトップ管理。** デスクトップインターフェースをカスタマイズおよび管理できるかどうかを示します。
- **リモートXML インターフェースの使用機能。** Webサイトをカスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを示します。Webサイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発にXML インターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。Plesk コントロールパネルのXML インターフェース(別名 Plesk API RPC) の使用方法の詳細は、<http://download1.swsoft.com/Plesk/Plesk8.1/Doc/plesk-8.1-api-rpc/index.htm> をご参照ください。

章 4


ドメインテンプレートをを使用したホスティングプランの実装

ホスティングサービスを再販したり、多数のドメインやWebサイトをホストしようとお考えでしたら、ドメインテンプレートと呼ばれるホスティング構成プリセットを作成してください。それによって新規ドメインやWebサイトのホスティングアカウントの設定が簡略化されます。テンプレートは全てのリソース使用割り当てや、ホスティングアカウントの権限および制限の定義や、メール転送およびWeb統計の保存の設定を網羅します。

テンプレートの作成

ホスティングプランの実装（または複数ドメインの設定の簡略化）には、ドメインテンプレートを作成し、ホスティングプランに応じてホスティングサービスおよびリソース割り当てを定義してください。

- 1 ホームページで [ツール] グループの [ドメインテンプレート] アイコンをクリックします。
- 2 [ドメインテンプレートの追加] をクリックします。
- 3 以下のテンプレートのプロパティを指定してください。
 1. **テンプレート名** このテンプレートの名前を指定します。新規ユーザアカウントの設定の間に、必要なテンプレートを名前を選択するように要求されます。したがって、ホスティングプランのいずれかに対応する、または割り当てられたリソース量を記述する意味のある名前を選択することをお勧め致します。例えば、メールホスティング、ディスク容量 1GB、メールボックス 500 などです。
 2. **存在しないユーザへのメール** ドメイン全体のメール返信オプションを指定します。誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、"this address no longer accepts mail (このアドレスはメールを受け取ることができません)" という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。
 - 気にいらなければデフォルトの通知を変更します（[メッセージ付き返信] オプションを選択したままで、別のメッセージを入力ボックスに入力します）。
 - 不達メールを他のメールアドレスに転送します（[アドレスに転送] オプションを選択し、必要なメールアドレスを指定します）。または、

- そのメールを承認せずに拒否します（[拒否] オプションを選択します）。この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名宛ての大量のスパムにより生じたメールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。
1. **Web メール。** このドメイン内のメールボックスのユーザは Web メールアプリケーションをベースにしたブラウザを通じて自身のメールを読めるようにすべきかどうかを指定します。
 2. **サブドメインの上限数。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
 3. **ドメインエイリアスの上限数。** サイトオーナーが自分の Web サイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
 4. **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されます。全てのドメインおよび Web サイトに関連する全てのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。Web サイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。超過すると、ドメイン名や Web サイトは自動的に停止されることはなく、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコン  に示されます（ホームページのドメイン名のリストをご参照ください）。そして以下を実行できます。
 - 支払いの猶予期間後にドメインオーナーに通知してドメインまたは Web サイトを停止することができます（営業上あまりいい方法ではありませんが、その方法をとる場合は「ドメインおよび Web サイトの保留と保留解除」の章をご参照ください）。または
 - 顧客のホスティングプランをアップグレードできます（このセクションに後で出てくるホスティングプランのアップグレードについての記述をご参照ください）。
 5. **トラフィックの上限量。** 1 ヶ月間に Web サイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。制限量に達すると、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ホームページのドメイン名のリストをご参照ください）。Web サイトをより多くの人を訪れるようになりより多くの帯域幅が必要になった場合は、ホスティングプランのアップグレードをご検討ください（下記のホスティングプランのアップグレードについての記述をご参照ください）。

6. **Web ユーザの上限数。** ドメインオーナーが自身のドメインの下の他のユーザのためにホストできる個人 Web ページ数を指定します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、**[Web ユーザーへのスクリプトの使用の許可]** チェックボックスも選択してください。詳細は「Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング」セクションを参照してください。
7. **データベースの上限数** 1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
8. **メールボックスの上限数。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
9. **メールボックスクォータ。** 1つのドメイン内の各メールボックスに割り当てられるディスク容量をキロバイトで指定します。
10. **メールフォワーダの上限数** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
11. **メール自動応答の上限数。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
12. **メーリングリストの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。使用したいにもかかわらずインストールされていない場合にはプロバイダにインストールを依頼してください。メーリングリストを使用できるようにするには、**[選択設定]** グループの下の **[メーリングリスト]** チェックボックス内にチェックマークを入れることも必要です。
13. **Java アプリケーションの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメインにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの上限数を指定します。
14. **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメインおよび Web サイトは停止されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名や Web サイトを元の操作に戻す為に、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。ホームページで必要なドメイン名をクリックし、**[制限]** アイコンをクリックし、**[有効期間]** ボックス内で別の期間を指定し、**[OK]** をクリックし、次に **[ドメイン]** グループ内の **[有効]** アイコンをクリックします（**[ホーム]** > **[ドメイン名]**）。

15. **ログローテーション** Web サーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。ホームページ上でデバッグするためにこういった生ログファイルのコンテンツを表示する必要がある場合は、必要なドメイン名をクリックし、**[ログマネージャ]** をクリックし、次に必要なログファイル名をクリックします。これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。
 - **[ログローテーションの有効化]** チェックボックスを選択します。
 - ログファイルを再利用する時期を指定し、
 - サーバに格納する、Plesk の統計ユーティリティが処理した各ログファイルのインスタンス数を指定し、
 - 圧縮する必要があるかどうかを指定します。
 - そして処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
16. **トラフィック統計保持**。帯域幅使用量の統計がサーバに保管される期間を月で指定します。
17. **DNS** Web ホスト上の DNS サーバがドメイン名ゾーンのためのマスター（プライマリ）ネームサーバとして動作するか、スレーブ（セカンダリ）ネームサーバとして動作するかを指定します。セカンダリサーバがプライマリからこのゾーンファイルのコピーを取得するだけである一方で、プライマリネームサーバはローカルで提供するゾーンファイルを格納します。通常 **[マスター]** オプションが選択されたままにします。
18. **物理的ホスティングアカウント** ドメイン名だけではなく、Web サイトもホストする場合、**[物理ホスティング]** チェックボックスを選択しホスティング機能を指定します。
 - **ハードディスククォータ**。ソフトクォータに加えて、制限に達した場合にさらに多くのファイルを Web スペースに書き込めないようにするいわゆるハードクォータを指定できます。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。
 - **SSL 対応**。Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマース Web サイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかの Web サイトをホストする Web サーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとする、ユーザに警告メッセージが表示されます。Web サイト用の SSL 暗号化を許可するには、**[SSL 対応]** チェックボックスを選択してください。

- **SSLコンテンツおよび非SSLコンテンツを格納する為の単一のディレクトリの使用** デフォルトでは、ユーザがFTPアカウントを通じてサイトを公開する場合、`httpsdocs` ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならないWebコンテンツおよびプレーンHTTPを経由して`httpdocs` ディレクトリにアクセスできるようにしなければならないWebコンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所 (`httpdocs` ディレクトリ) を通じて全てのコンテンツを公開するのに便利のように、**[SSLおよび非SSLコンテンツの格納用に単一ディレクトリの使用]** チェックボックスを選択してください。
- **FrontPage 対応** Microsoft FrontPage は人気のある Web サイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、**[FrontPage 対応]** および **[SSL上のFrontPage対応]** チェックボックスを選択し、**[FrontPage オーサリング]** オプションを **[有効]** に設定します。
- **動的 Web サイトおよびサーバサイド Web アプリケーションの開発に幅広く使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語が Web サーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python、ColdFusion および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト。
- **Web 統計。** ドメインおよび Web サイトオーナーがサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、**[Web 統計]** メニュー (AWStats がお奨めです) および **[パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/ 経由でアクセス可能]** チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインや Web サイトのオーナーは自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、URL <https://your-domain.com/plesk-stat/> にある Web 統計にアクセスできます。
- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、**[カスタムエラードキュメント]** チェックボックスを選択します。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへの Shell アクセス** これにより、サイトオーナーは Secure Socket Shell 接続を通じて信頼性を持って Web コンテンツをサーバにアップロードできます。ただし、Shell アクセスを許可することによってもサーバセキュリティに対する潜在的な脅威がもたらされます。そこで、Shell アクセスを許可しないことをお奨めします。**[禁止]** オプションを選択したままにしてください。

4 [OK] して、テンプレートの作成を終了します。

新規ドメインまたはWebサイトのホスティングアカウントの設定中に、要求されたテンプレートを選択します。そうすれば、ホスティングアカウントが作成され、定義したリソースとホスティングサービスが割り当てられます。

テンプレートの変更

- **新規に作成したアカウントに適用されるホスティングパッケージ提供についての変更を反映させるには以下を実行します。**
- 1 ホームページで [ツール] グループの [ドメインテンプレート] アイコンをクリックします。
- 2 更新するホスティングプランに対応するテンプレート名をクリックします。
- 3 必要に応じて設定を修正し [OK] をクリックします。
テンプレートの修正は既存のドメインおよびWebサイトには影響を及ぼさないという点に注意してください。

テンプレートの削除

- **不要になったテンプレートを削除するには、以下を実行してください。**
- 1 ホームページで [ツール] グループの [ドメインテンプレート] アイコンをクリックします。
- 2 不要になったテンプレート名に対応するチェックボックスを選択します。
- 3 **✗** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

章 5

Web サイトのホスティング

新規 Web サイトのコンテンツの事前定義

特定のファイルとディレクトリを新規にホストされる Web サイト用に作成された Web スペースに自動的に含めるようにコントロールパネルを設定できます。これは、役に立つスクリプトのセットであり、カスタムエラーメッセージであり、プレースホルダ `index.html` ページであり、その他ご希望のファイルである可能性があります。こういったファイルはサイトベースごとに取り替え、編集、削除できます。

Web コンテンツが自動的に Web スペースに含まれるようにするためにコントロールパネルを設定するには以下の操作を実行します。

- 1 ローカルファイルシステム上で、必要なディレクトリを作成します。
`httpdocs`、`httpsdocs`、`cgi-bin`、`anon_ftp`、`error_docs` などです。
- 2 必要なファイルを作成したディレクトリに配置します。Web ページを `httpdocs` および `httpsdocs` ディレクトリに、スクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに、カスタムエラーメッセージを `error_docs` ディレクトリに配置します。
- 3 ディレクトリおよびファイルを `tgz`、`tar`、`tar.gz` または `zip` フォーマット内のアーカイブファイルにパックします。
ディレクトリはサブディレクトリではなく、必ずアーカイブファイルの `root` に配置して下さい。
- 4 Plesk コントロールパネルにログインするには、以下の操作を実行します。
- 5 ホームページで [ツール] グループの [スケルトン] アイコンをクリックします。
- 6 アーカイブファイルをローカルコンピュータに配置するために [参照] ボタンをクリックしてファイルを選択し、[ファイル送信] ボタンをクリックします。

Web サーバディレクトリおよびファイルのオリジナルの構造に戻すには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで [スケルトン] アイコンをクリックします。

2 [デフォルト] ボタンをクリックします。

ドメイン名の取得

インターネットで Web サイトを公開する前に、ドメイン名登録機関に一意のドメイン名を登録する必要があります。ドメイン名は記憶しやすい Web サイトアドレスにします。

Web サイトを訪れるには、ドメイン名（例：your-domain.com）または URL（例：http://www.your-domain.com）をブラウザのアドレスバーに入力します。要求されたサイトを表示するには、ブラウザはまずその要求されたドメイン名に対応する IP アドレスを見つける必要があります。IP アドレスにより表現されるマシンのアドレス、つまりドメイン名は人の手を介して作成されるからです。ブラウザは分散 DNS 内のネームサーバを照会し、DNS は要求されたドメイン名を IP アドレスに変換してブラウザに IP アドレスを返します。そして、ブラウザは指定の IP アドレスの Web サーバに接続し、そこから Web ページを取得します。このようにして他のユーザがドメイン名を使用してサイトを探せるようにするには、DNS にドメイン名を登録する必要があります。

サイトのドメイン名を選ぶ際は、自分のビジネス、ブランド名、興味に関連した言葉の組み合わせを考えましょう。ドメイン名は記憶しやすいものにします。ドメイン名がいくつかの単語から成る場合、ハイフンで区切る必要があるかもしれません。これはサーチエンジンがそれぞれの単語を識別するのを容易にするためであり、ユーザはより早くサイトを見つけることができます。

潜在的な顧客が自分の Web サイトを見つける可能性を高めるためには、同じドメイン名のハイフンがないバリエーションも購入しておく必要があるかも知れません。your-domain.com、your-domain.net などです。ドメイン名が1つの単語から成る場合でも、ユーザのミススペルやタイプミスも考慮して、オリジナルのサイトにポイントするミススペルのバリエーションで1つ以上のドメイン名を購入する必要もあるかも知れません。実際の例として、次のようなものがあります。オリジナルの Web サイトのアドレス www.google.com を持つ Google サーチエンジンです。単語の隣同士のアルファベットを間違えて入力したり、余計なアルファベットを入力したりすることは誰にでもあるので、追加で3つのドメイン名がオリジナルサイトをポイントするよう設定されています。 www.googel.com と www.goolge.com と www.google.com です。

適切なドメイン名を決めたら、ご自分でドメイン名登録機関に登録するかサービスプロバイダに依頼してください。登録費用は登録機関により異なります（通常、年間4～10米ドルです）。

サービスプロバイダがそのオプションを有効にしていれば、Plesk 経由でドメイン名を登録および管理することが可能です。

- Plesk 経由でドメイン名を登録するには、ホームページの **【登録】** アイコンをクリックします。MyPlesk.com の Web サイトが開き、段階を追ったウィザードで登録手続きができます。
- Plesk 経由でドメイン名を管理するには、ホームページの **【管理】** アイコンをクリックします。MyPlesk.com の Web サイトが開き、ログインしてドメイン名を管理することができます。

Web サイトのホスティングアカウントの設定

サーバ上で Web サイトをホストするには、以下を実行します。

- 1 ホームページで **【新規ドメインの追加】** をクリックします。
- 2 登録したドメイン名と同じものを指定します。 www.your-domain.com のような一般的な URL でユーザが Web サイトのアクセスできるよう許可するには、 **【www】** チェックボックスは選択したままにします。

ドメイン名の前に www エイリアスをつけたるのは無料でできますが、この場合はブラウザに入力した文字に関係なくユーザに Web サイトへのアクセスを許可することになります。そして、 www.your-domain.com と your-domain.com は同じサイトをポイントします。

- 3 このクライアント向けにすでにドメインテンプレートを作成しすべてのホスティング機能とリソース利用割り当てを定義している場合（「ホスティングプランの実装」の章で説明されています）、 **【テンプレート選択】** ボックスで必要なテンプレートを選択します。
- 4 選択先の IP アドレスの数がある場合、 **【IP アドレスの選択】** ドロップダウンボックスから必要なアドレスを選択します。

SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトは IP アドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることを忘れないでください。

- 5 **【ホスティング設定に進む】** チェックボックスがチェックされていることを確認して、 **【OK】** をクリックします。
- 6 自分のマシンで Web サイトをホストするには、 **【物理ホスティング】** オプションを選択します。

この操作が完了すると、コントロールパネルがこのマシンの新しいドメイン名となるドメイン名サーバを設定し、新しい Web サイトをサブする Web サーバを準備します。適切なリソースレコードを持つ新しいゾーンファイルがドメイン名サーバの設定ファイルとして追加され、Web スペースが Web サーバのディレクトリ内に作成され、必要なユーザアカウントがサーバ上に作成されます。

注： サイトが他のマシンでホストされる場合、コントロールパネルの DNS サーバをサイトの DNS ゾーンのサブの為だけに使用するには、**【フレーム転送】**または**【標準転送】**オプションのいずれかを選択します。スタンダード転送では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へリダイレクトされていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずにリダイレクトされます。例えば、以下ようになります。顧客が無料の個人 Web サイトをインターネットサービスプロバイダまたは無料の Web ホストを利用して持っていて、その Web サイトのアドレスが<http://www.geocities.com/~myhomepage>の場合に、顧客は第 2 レベルのドメイン名www.myname.comを購入し、その Web サイトへのドメインの転送を希望したとします。このような場合では、通常**【フレーム転送】**サービスを選択します。詳しくは、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」の章をご参照ください。

7 ホスティングアカウントのプロパティを指定します。

- **SSL 対応。** Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマース Web サイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかの Web サイトをホストする Web サーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとすると、ユーザに警告メッセージが表示されます。Web サイト用の SSL 暗号化を許可するには、**【SSL 対応】**チェックボックスを選択してください。
- **SSL コンテンツおよび非 SSL コンテンツを格納する為の単一のディレクトリの使用** デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（httpdocs ディレクトリ）を通じて全てのコンテンツを公開するのに便利なように、**【SSL および非 SSL コンテンツの格納用に単一ディレクトリの使用】**チェックボックスを選択してください。
- **FTP ログインおよび FTP パスワード** FTP 経由のサーバへのサイトを発行するのに使用するユーザ名およびパスワードを指定します。**【パスワードの確認】**ボックスでパスワードを再入力してください。

- **ハードディスククォータ。** このサイトの Web スペースに割り当てるディスク容量をメガバイト単位で指定します。これは、制限に達した場合にさらに多くのファイルを Web スペースに書き込めないようにする、いわゆるハードクォータです。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。ハードクォータはサーバのオペレーティングシステムで有効化されます。[ハードディスククォータ] フィールドで「ハードディスククォータ対応なし」という旨のコメントが表示されていて、ハードクォータを使用したい場合は、プロバイダまたはサーバ管理者に連絡してクォータを有効にするよう依頼してください。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへの Shell アクセス** これにより、サイトオーナーは Secure Socket Shell 接続を通じて信頼性を持って Web コンテンツをサーバにアップロードできます。ただし、Shell アクセスを許可することによってもサーバセキュリティに対する潜在的な脅威がもたらされます。そこで、Shell アクセスを許可しないことをお奨めします。[禁止] オプションを選択したままにしてください。
- **FrontPage 対応** Microsoft FrontPage は人気のある Web サイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、[FrontPage 対応] および [FrontPage over SSL 対応] チェックボックスを選択し、[FrontPage オーサリング] オプションを [有効] に設定して、[FrontPage 管理者ログイン] および [パスワード] を指定します。
- **動的 Web サイトおよびサーバサイド Web アプリケーションの開発に幅広く使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語が Web サーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Python、ColdFusion、および Miva スクリプト言語。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するよう設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。Web アプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はセーフモードをオフに切り替えてください(またはプロバイダにその旨依頼してください)。それには、ホスティングアカウントプロパティで [PHP 'safe_mode' on] チェックボックスの選択を外します ([ホスティング] グループで [ホーム] > [ドメイン名] > [設定] アイコン)。
- **Web 統計。** ドメインおよび Web サイトオーナーがサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、[Web 統計] メニュー (AWStats がお勧めです) で統計プログラムを選択して [パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/ 経由でアクセス可能] チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計プログラムがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインや Web サイトのオーナーは自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、URL <https://your-domain.com/plesk-stat/> にある Web 統計にアクセスできます。

注： 統計プログラムを切り替えた場合、前に使用していた統計プログラムで作成したレポートはすべて削除され、新しいレポートがログファイルから情報を読み取ることで作成されサーバに保存されます。つまり、1ヶ月間しかログファイルを保存しないようにシステムを構成（[ホーム] > [ドメイン名] > [ログマネージャ] > [ログローテーション]）すると、Web統計は最後の1ヶ月間しか有効ではありません。

- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターがWebサーバが見つけられないページを要求する場合、Webサーバによりエラーメッセージを伴った標準のHTMLページが生成され、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、[カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択します。

8 [OK] をクリックします。

これで、サーバが新しいWebサイトを格納する準備が整いました。サイトのオーナーはこのサーバ上でサイトを公開できます。Webサイトの公開方法については、このガイドの「サイトの公開」『ページ数44』セクションをご参照ください。

注： このドメイン名を他のWebホストから転送する場合、ドメイン名レジストラとともにホストDNSアドレスを更新し、自分のネームサーバにポイントされるようにする必要があります。レジストラのWebサイトにログインし、ドメインのホストのポインタを管理するのに使用するフォームを配置し、現在のDNSホスト設定を自分のネームサーバのホスト名で書き換えます。新しいネームサーバの情報は、48時間以内にDNSシステム全体に行き渡ります。

このサーバでホストされるサイトのポイント先として複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。詳しくは、「サイトの追加のドメイン名（ドメインエイリアス）の設定」セクションをご参照ください。



ご自分のマシンで他のサーバ上でホストされているサイトへのポイント先として複数のドメインをホストする必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。詳しくは、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」の章をご参照ください。

1つのサイトで消費可能なリソースの量の制限

デフォルトでは、ドメインテンプレートを使用せずに設定した新しいWebサイトは帯域幅（データ転送）とディスク容量を制限なしで消費できます。

サイトで消費できるリソースの量を制限するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [制限] アイコンをクリックします。
- 3 必要に応じて、リソース使用量割り当てを調整します。
 1. **サブドメインの上限数。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。

2. **ドメインエイリアスの上限数。** サイトオーナーが自分の Web サイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
3. **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されます。全てのドメインおよび Web サイトに関連する全てのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。Web サイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。超過すると、ドメイン名や Web サイトは自動的に停止されることはなく、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ホームページのドメイン名のリストをご参照ください）。それによって、Web サイトで何をするかはご自身で決めることができます。
 - 支払いの猶予期間後にドメインオーナーに通知してドメインまたは Web サイトを停止することができます（営業上あまりいい方法ではありませんが、その方法をとる場合は「ホスティングアカウントの保留と保留解除」セクションをご参照ください）。または
 - 顧客のホスティングプランをアップグレードできます（「ホスティングプランの実装」の章に出てくるホスティングプランのアップグレードについての記述をご参照ください）。
1. **トラフィックの上限量。** 1 ヶ月間に Web サイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。制限量に達すると、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ホームページのドメイン名のリストをご参照ください）。Web サイトをより多くの人々が訪れるようになりより多くの帯域幅が必要になった場合は、ホスティングプランのアップグレードをご検討ください（「ホスティングプランの実装」の章に出てくるホスティングプランのアップグレードについての記述をご参照ください）。
2. **Web ユーザの上限数。** ドメインオーナーが自身のドメインの下の他のユーザのためにホストできる個人 Web ページ数を指定します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、**[Web ユーザーへのスクリプトの使用の許可]** チェックボックスを選択します。詳細は「Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング」セクションを参照してください。
3. **データベースの上限数** 1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
4. **メールボックスの上限数。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
5. **メールボックスクォータ。** 1つのドメイン内の各メールボックスに割り当てられるディスク容量をキロバイトで指定します。

6. **メールフォワーダの上限数** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
 7. **メール自動応答の上限数。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
 8. **メーリングリストの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。使用したいにもかかわらずインストールされていない場合にはプロバイダにインストールを依頼してください。
 9. **Java アプリケーションの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメインにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの上限数を指定します。
 10. **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメインおよび Web サイトは停止されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名や Web サイトを元の操作に戻す為に、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。ホームページで必要なドメイン名をクリックし、**【制限】** アイコンをクリックし、**【有効期間】** ボックス内で別の期間を指定し、**【OK】** をクリックし、次に **【ドメイン】** グループ内の **【有効】** アイコンをクリックします（**【ホーム】** > **【ドメイン名】**）。
- 4 **【OK】** をクリックします。

サイトのオーナーにコントロールパネルへのログインを許可する

サイトのオーナーが自分の Web を管理する目的でコントロールパネルへログインするのを許可するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ツール] [ドメイン] [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
- 3 [ドメイン管理者にアクセスを許可する] チェックボックスを選択します。
- 4 サイトのオーナーがコントロールパネルへのアクセスに使用するパスワードを入力します。

セキュリティ上の理由から、パスワードは9文字以上とし、アルファベット、数字、記号の組み合わせにする必要があります。辞書に載っていないような言葉や固有名詞は避けましょう。

- 5 ユーザのコントロールパネル外観に関連する設定を指定します。インターフェース言語、テーマ（スキン）、サイトのオーナーによりコントロールパネル内のカスタムボタンに表示される文字数の制限などです。
- 6 サイトのオーナーがコントロールパネルで複数のセッションを同時に実行できるようにするには、[複数のセッションの許可] チェックボックスを選択したままにします。
- 7 [インターフェース画面が完全にロードされるまでコントロールパネルでユーザが操作するのを禁止する] チェックボックスを選択したままにしてください。

そうすると、ユーザはコントロールパネルの準備ができるまでデータを送信したり操作を実行することができないようになります。

- 8 サイトのオーナーが自分のコントロールパネルで実行できる操作を指定します。
 - **物理的ホスティング管理。** ホスティングアカウントおよび Web スペースの完全な制御を許可または禁止します。
 - **FTP パスワード管理。** ユーザが自分の FTP アカウントパスワードを変更するのを許可または禁止します。
 - **サーバへの Shell アクセスの管理** [クライアントに Shell アクセスを許可する権限を与えない] オプションは選択したままにするようお奨めします。
 - **ハードディスククォータ割り当て。** Web スペースに割り当てられているディスククォータをサイトオーナーが自分で調整できるようにします。
 - **サブドメイン管理。** サイトオーナーにサブドメインの設定、修正、削除を許可または禁止します。

- **ドメインエイリアスの管理。** サイトオーナーに追加のドメイン名を Web サイトに設定することを許可または禁止します。
- **ログローテーション管理。** サイトオーナーが処理済みのログファイルのクリーンアップを調整したり再利用するのを許可または禁止します。
- **匿名 FTP 管理。** サイトオーナーが自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定するのを許可または禁止します。Anonymous FTP を使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP を使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **タスクのスケジューリング。** サイトオーナーがシステム内でタスクをスケジューリングするのを許可または禁止します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **DNS ゾーン管理。** サイトオーナーに自分のドメインの DNS ゾーンの管理を許可または禁止します。この許可は経験豊かなユーザにのみ推奨されます。
- **Java アプリケーション管理** サイトオーナーに Web サイト上での Java アプリケーションおよびアプレットのインストールを許可または禁止します。
- **メーリングリスト管理** サイトオーナーに GNU Mailman ソフトウェアで提供されるメーリングリストの使用を許可または禁止します。
- **スパムフィルタ管理。** サイトオーナーに GNU Mailman ソフトウェアで提供されるスパムフィルタの使用を許可または禁止します。
- **アンチウイルス管理。** サイトオーナーに送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護の使用を許可または禁止します。
- **バックアップと復元機能** サイトオーナーにコントロールパネルの機能を使用した顧客のサイトのバックアップおよび復元を許可または禁止します。定期的なバックアップおよびオンデマンドのバックアップの両方に対応しています。
- **ユーザインターフェース。** 使用できるユーザインターフェースのタイプ(標準、デスクトップ、または両方)を選択します。
- **デスクトップ管理。** サイトオーナーが自分のデスクトップのインターフェースをカスタマイズ、管理できるかどうかを指定します。

9 サイトオーナーの連絡情報を指定します。

10 [OK] をクリックします。

これで、顧客にコントロールパネルの URL、ログイン、パスワードを伝えることができるようになりました。URL は https://<user's_domain_name>:8443 となり、<user's_domain_name>の部分は www エイリアスなしのドメイン名です。サイトオーナーは、コントロールパネルへのログインに必要なログイン名として自分のドメイン名を指定する必要があります（例：your-domain.com）。

サイトの公開

自分のサイトを公開するということは、サイトを構成する Web ページ、スクリプト、グラフィックファイルを自分の Web スペースにアップロードすることです。以下のいずれかの方法で行います。

- FTP 接続経由
- Plesk ファイルマネージャ経由
- セキュア Shell 接続経由（Linux および FreeBSD オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）
- Microsoft FrontPage ソフトウェア経由（Microsoft Windows オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）

FTP はファイルをアップロードするのに最もよく利用され、最も簡単な方法です。

FTP 経由でのファイルのアップロード

- 1 FTPクライアントプログラムでサーバに接続します。この際、ホスティングアカウントの設定時に指定した、またはプロバイダから取得したFTPアカウントの信用情報を使用します。
ファイアウォールを設定している場合は、パッシブモードを有効にします。
- 2 HTTPプロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリにアップロードし、SSLプロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリにアップロードします。
- 3 CGIスクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。
- 4 FTPセッションを終了します。

FTP パスワードの変更




- **Web ページオーナーの FTP パスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [ホスティング] グループの [設定] をクリックします。
 - 3 パスワードを指定します。
 - 4 [OK] をクリックします。

Plesk ファイルマネージャ経由でのファイルのアップロード

Plesk ファイルマネージャ経由でファイルをアップロードするには、以下を実行します。


- 1 Pleskコントロールパネルにログインします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 [ホスティング] グループの [ファイルマネージャ] アイコンをクリックします。
- 4 ファイルとディレクトリを作成し、アップロードします。


HTTP プロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリに配置し、SSL プロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリに配置します。CGI スクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。


- 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成するには、 [新しいディレクトリを追加] ボタンをクリックします。
- 必要なディレクトリに新しいファイルを作成するには、 [新しいファイルを追加] を追加します。[ファイル作成] セクションでファイル名を指定します。さらに、ファイルマネージャで新しいファイルに `html` タグを挿入できるようにするには、[html テンプレートを使用] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。新しいページが開くので、ここで新しいファイルのコンテンツ、つまり `html` 形式にフォーマットされたソースを入力します。完了したら、[OK] をクリックします。
- ローカルマシンからファイルをアップロードするには、 [新しいファイルを追加] をクリックし、[ファイルソース] ボックス（または [参照] ボタンでファイルの場所を指定します）でそのファイルの保存場所へのパスを指定して [OK] をクリックします。


Web コンテンツをファイルマネージャまたは FTP 経由でアップロードすると、コントロールパネルはファイルやディレクトリへの適切なアクセス権限を自動的に設定します。権限は「`rwX rwX r--`」などの文字の組み合わせの 3 セットで表現されます。最初のセットはそのファイルまたはディレクトリのオーナーがどのような権限を持つかを示しており、2 番目のセットはそのファイルまたはディレクトリが属するユーザグループとそのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限、3 番目のセットは他のユーザ（その際とを訪れたインターネットユーザなどのその他大勢）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を現しています。R はファイルまたはディレクトリを読み取る権限、W は書き込む権限、X はディレクトリ内のファイルまたは内観を決定する権限をそれぞれ意味します。


ファイルまたはディレクトリに対する許可を変更するには、[権限] 列でそのセットの許可を示すそれぞれのハイパーリンクをクリックします。必要に応じて権限を修正し [OK] をクリックします。


ファイルのソースコードを編集するには、 をクリックします。


ビルトインの Visual Editor 内の Web ページを編集するには (Microsoft Internet Explorer ユーザのみ利用可能)、 をクリックします。HTML ファイルを編集するときはデフォルトで Plesk は内部 WYSIWYG エディタを開きます。HTML ファイルのソースコードを編集するには [Html] をクリックします。WYSIWYG モードに戻るには [デザイン] をクリックします。

ファイルを表示するには  をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには  をクリックします。ここで新しい名前を入力して [OK] をクリックします。

ディレクトリやファイルを新しい位置にコピーまたは移動するには、チェックボックスを使って適切なディレクトリやファイルを選択して  [コピー/移動] をクリックします。ディレクトリやファイルがコピーされる先またはその名前を指定し、コピーをする場合は [コピー] を、移動する場合は [移動] をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには、 [タッチ] をクリックします。タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。

ファイルまたはディレクトリを削除するには、該当するチェックボックスを選択して  [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

SSH 接続によるサイトのアップロード

ローカルコンピュータ上で Linux または FreeBSD の OS を使用しサーバシェルにアクセスするには「scp」コマンドを使用してファイルやディレクトリをサーバにコピーします。ファイルをコピーするには `scp your_file_name login@remoteserver.com:path` を、ディレクトリ全体をコピーするには `scp -r your_directory_name login@remoteserver.com:path` を指定します。

すると、Plesk コントロールパネルに搭載されている SSH ターミナル Web アプリケーションを使用して、アカウント上のファイルやディレクトリで作業ができるようになります ([ドメイン名] > [SSH ターミナル]) 。

Microsoft FrontPage を使用して公開

Microsoft FrontPage は次の 2 つの Web サイトに対応しています。ディスクベースの Web サイトとサーバーベースの Web サイトです。ディスクベースのサイトとは、ローカルハードディスク上で作成した後に Web サーバに公開する FrontPage Web サイトのことです。サーバーベースのサイトとは、Web サーバ上で直接作成および作業する Web サイトで、別途の公開手続きが必要ありません。ここでは、ディスクベースの Web サイトの公開方法についてのみ説明します。

データベースの Web サイトは、FTP または HTTP を通じて公開できます。サーバが FrontPage Server Extensions を実行していれば、サイトを HTTP の場所に公開することになります 例えば、以下ようになります。 <http://your-domain.com/MyWebSite>。サーバが FTP をサポートしていれば、FTP の場所に公開することになります 例えば、以下ようになります。 <ftp://ftp.your-domain.com/myFolder>。

公開後、FrontPage Server Extensions によりサイトを管理できます。

FrontPage Server Extensions 管理インターフェースにアクセスするには、以下の操作を実行します。

- 1 Pleskにログインします。
- 2 必要なドメイン名をクリックします。
- 3 SSLによって保護されていないサイトを管理するには、[FP Webadmin] をクリックします。SSLが使用できるサイトを管理するには、[FP-SSL Webadmin] をクリックします。
- 4 FrontPage管理者のログイン名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

FrontPage server extensions の使用方法については、オンラインヘルプ（[FP Webadmin] > [ヘルプ]）または Microsoft の Web サイトをご参照下さい。

Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由で公開

➤ **FTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

- 1 FrontPageプログラムを開きます。
- 2 FrontPageのWebサイトを開きます。[ファイル]メニューを開いて[サイトを開く]の項目を選択します。
- 3 [リモートWebサイト] ビューに行きます。[Webサイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある[リモートWebサイト] ボタンをクリックします。
- 4 [リモートWebサイトのプロパティ] を設定します。
 - ウィンドウの右上隅にある[リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
 - リモート Web サーバとして [FTP] を選択します。
 - [リモート Web サイトロケーション] ボックスに、ホスト名（例：<ftp://ftp.your-domain.com>）を入力します。
 - [FTP ディレクトリ] ボックスで、ホスティング会社から提供されたものがあれば FTP ディレクトリに入力します。特定できるものがない場合は、空欄のままにしておいて下さい。
 - コンピュータまたはネットワークがファイアウォールによって保護されているときは、[パッシブ FTP の使用] チェックボックスを選択して下さい。

- 5 [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。
[リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
- 6 ウィンドウの右下隅にある [Webサイトの公開] ボタンをクリックします。

Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由で公開

➤ *FrontPage Server Extensions* をサポートするサーバ上に HTTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。

- 1 FrontPage プログラムを開きます。
- 2 FrontPage の Web サイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
- 3 [リモート Web サイト] ビューに行きます。 [Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
- 4 ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
- 5 [リモート Web サーバタイプ] にある [リモート Web サイト] タブで、 [FrontPage または SharePoint Services] をクリックします。
- 6 [リモート Web サイトロケーション] ボックスで、フォルダやファイルを公開したいリモート Web サイトのインターネットアドレスをプロトコルを含めて（例えば、<http://www.your-domain.com>）入力するか、 [参照] をクリックしてサイトの位置を決めます。
- 7 次のいずれかを実行します。
 - 重要な情報を妨害から守る安全な通信チャネルを確立するため、Secure Sockets Layer (SSL) を使用するには、 [暗号化接続の要求(SSL)] をクリックします。 Web サーバ上で SSL 接続を行うには、公認認証局から機密保護証明を受けてサーバを設定しなければなりません。サーバが SSL をサポートしていないときは、このチェックボックスのチェックを外します。 そうしないと、フォルダやファイルをリモート Web サイトに公開できません。
 - Web ページを公開する際に特定のタイプのコードを削除するには、 [HTML の最適化] タブ上で希望のオプションを選択します。
 - 公開のためのデフォルト選択を変更するには、 [公開] タブ上で希望のオプションを選択します。
- 8 [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。
 [リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
- 9 ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。

Adobe Dreamweaver からのサイトの公開

Dreamweaver からサイトを公開する前に、サイトプロパティを定義する必要があります。つまり、Dreamweaver にサイトファイルがコンピュータのどこにあるかを知らせ、サイトを公開したいサーバを指定する必要があります。

➤ *Dreamweaver* でサイトを定義するには以下を実行してください。

- 1 [サイト] メニューから [新規サイト] をクリックします。 サイト定義画面が開きます。
- 2 [高度] タブをクリックします。
- 3 [ロケール情報] カテゴリで以下を指定します。
 - [サイト名]。これが Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。
 - [ローカルルートフォルダ]。すべてのサイトファイルが保存されているコンピュータのフォルダです。例えば、`c:\My Site` となります。
 - [デフォルト画像フォルダ]。サイトのグラフィックファイルが保存されているフォルダを指定します。例えば、`c:\My Site\images` となります。
 - [HTTP アドレス]。ドメイン名を指定します。例えば、<http://your-domain.com> となります。
- 4 [カテゴリ] メニューから [リモート情報] 項目を選択します。
- 5 [アクセス] メニューから [FTP] オプションを選択します。恐らく、貴方のサーバは FTP (ファイル転送プロトコル。通常、ファイルをインターネット上で転送するのに使用されます) 経由の公開をサポートしています。
- 6 以下の設定を指定します。
 - [FTP ホスト]。先頭に `ftp://` を付けずに FTP ホスト名を入力します。例えば、`your-domain.com` となります。
 - [ホストディレクトリ]。サイトを置くサーバ上のディレクトリを指定します。ほとんどの場合、`httpdocs` です。
 - [ログイン名およびパスワード]。FTP アカウントにアクセスするログイン名とパスワードを指定します。
 - [受動 FTP の使用]。コンピュータがファイアウォール内であればこのオプションを選択します。
- 7 正しいログイン名およびパスワードが指定され、Dreamweaver がサーバに接続できることを確認するために、[テスト] ボタンをクリックします。
- 8 [OK] をクリックして設定を保存します。

➤ *サイトを公開するには以下を実行してください。*

- 1 Dreamweaverでサイトを開きます。
- 2 [サイト]メニューで[置く]オプションを選択します(またはCtrl+Shift+Uを同時に押します)。

サイトのプレビュー

サーバ上にサイトを公開したら、実際のホスティング環境で正しく機能しているか確認したいと思うかも知れません。たとえドメイン名に関する情報がドメインネームシステムに広がっていなくても、お好みの Web ブラウザを通じてプレビューできます。ただし、プレビューにおいては Macromedia Flash と CGI スクリプトは動作しません。

➤ **サイトをプレビューするには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [サイトプレビュー] をクリックします。

データベースの配置

Web サーバにデータ処理アプリケーションを組み込むか、Web ページをダイナミックに生成させたい場合には、データを格納し検索するためのデータベースが必要になることでしょう。その場合、サイト用に新しいデータベースを作成するか、または以前に MySQL や PostgreSQL データベースにバックアップしたデータを取り込むことが可能です。

データベースの作成またはインポート

ホスティングアカウントに新しいデータベースを作成するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[データベース]** をクリックします。
- 3 **[新しいデータベースを追加]** をクリックします。
- 4 データベースの名前を入力します。
名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします（64 文字まで）。
- 5 使用するデータベースタイプを選択します。データベースのタイプは、MySQL または PostgreSQL です。 **[OK]** をクリックします。
- 6 データベース管理者の信用情報を設定するには、**[新しいデータベースユーザを追加]** をクリックします。
- 7 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
- 8 **[OK]** をクリックします。

既存のデータベースを取り込むには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[データベース]** をクリックします。
- 3 **[新しいデータベースを追加]** をクリックします。
- 4 データベースの名前を入力します。名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします（64 文字まで）。
- 5 使用するデータベースタイプを選択します。データベースのタイプは、MySQL または PostgreSQL です。 **[OK]** をクリックします。

- 6 データベース管理者の信用情報を設定するには、**【新しいデータベースユーザを追加】** をクリックします。
- 7 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 **【OK】** をクリックします。
- 8 **【ツール】** グループの **【DB WebAdmin】** アイコンをクリックします。phpMyAdmin（またはphpPgAdmin）データベース管理ツールのインターフェイスが別のブラウザウィンドウに開きます。
- 9 左フレームにある **【Query window】** アイコンをクリックします。
- 10 **【ファイルのインポート】** タブをクリックします。
- 11 データが含まれているテキストファイルを選択し、**【進む】** をクリックします。
- 12 **【テキストファイルからデータを挿入】** リンクをクリックします。

データベースおよびそのコンテンツを管理するには、MySQL または PostgreSQL クライアントまたは Plesk コントロールパネルからアクセスできる Web ベースのデータベース管理ツール（**【ホーム】** > **【ドメイン名】** > **【データベース】** > **【データベース名】** > **【DB WebAdmin】**）を使用して下さい。

データベースユーザアカウントの作成

Web サイトの管理を他の人たちと協力して行い、皆がデータベースにアクセスできるようにするには、別々のユーザアカウントを作成する必要があります。

- **データベースユーザアカウントを作成するには、以下を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 **【サービス】** グループの **【データベース】** をクリックします。
 - 3 データベース名をクリックします。データベースユーザのリストが開きます。
 - 4 **【新しいデータベースユーザを追加】** をクリックします。
 - 5 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 **【OK】** をクリックします。

データベースユーザパスワードの変更

- データベースユーザのパスワードを変更するには、以下を実行します。
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [データベース] をクリックします。
- 3 データベース名をクリックします。データベースユーザのリストが開きます。
- 4 データベースユーザ名をクリックします。
- 5 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

データベースユーザアカウントの削除

- データベースユーザアカウントを削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [データベース] をクリックします。
- 3 データベース名をクリックします。データベースユーザのリストが開きます。
- 4 削除するユーザアカウントに対応するチェックボックスを選択します。
- 5 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。


データベースの削除

- データベースとそのコンテンツを削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [データベース] をクリックします。
- 3 削除するデータベースに対応するチェックボックスを選択します。
チェックボックスが灰色に表示された場合、これはこのデータベースがサイトアプリケーションによって使用され、それぞれのアプリケーションを削除することによってのみ削除できることを意味します。
- 4 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
- 5 削除を確認して [OK] をクリックします。

アプリケーションのインストール

Webサイトをゲストブック、フォーラム、カウンター、フォトギャラリー、Eコマースソリューションなどの価値ある機能を持ったものとするために、コントロールパネルのスクリプトライブラリ（[ホーム] > [ドメイン名] > [アプリケーションヴォルト]）から各アプリケーションをインストールできます。インストール可能なアプリケーションの数や種類はプロバイダの意向やホスティングプランによります。

サイトにアプリケーションをインストールするには、以下の操作を実行します。


- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [アプリケーションヴォルト] アイコンをクリックします。サイトにインストールされているアプリケーションのリストが表示されます。
- 3 [ツール] グループの [新しいレコードを追加] アイコンをクリックします。インストールできるサイトアプリケーションのリストが表示されます。
- 4 アプリケーションをインストールしたいサイトを指定するには、画面の右上隅にある [ターゲットドメイン] ドロップダウンボックスの中からサイトを選択します。
- 5 インストールしたいアプリケーションを指定するには、アプリケーションに対応するラジオボタンを選択します。
- 6  [インストール] をクリックします。
- 7 アプリケーションのインターフェースにハイパーリンクを作成し、コントロールパネルに設置するかどうかを指定します。
- 8 アプリケーションが要求するインストールの選択設定や他の情報を指定します（必要な条件はアプリケーションによって異なります）。設定が終了したら、[OK] をクリックします。
- 9 コントロールパネル内にハイパーリンクボタンを作成する場合は、そのプロパティを指定して下さい。
 - [ボタンラベル] ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。各ドメイン管理画面（[ホーム] > [ドメイン名]）上に配置するには、配置場所として [ドメイン管理ページ] 値を選択します。ホームページの左フレーム（ナビゲーションペイン）に貼付するには [ナビゲーションペイン] 値をクリックします。
 - ボタンの優先度を指定します。作成したボタンは、その優先度に従ってコントロールパネル上に配置されます。数字が小さいほど優先度が高くなります。ボタンは左から右へ並べられます。


- ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、**【参照】** をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお奨めします。
- **【URL ボックス】** ボックスにボタンへ付加するハイパーリンクを入力します。
- チェックボックスを使用して、URL 内に転送されるドメイン ID やドメイン名などのデータを含むかどうか指定します。これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
- **【コンテキストヘルプヒントコンテンツ】** 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
- 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、**【コントロールパネルの中に URL を開く】** チェックボックスをチェックして下さい。このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くこととなります。
- 特定のドメイン所有者やメールユーザからも見えるようにするには、**【すべてのサブログインを表示】** チェックボックスをチェックします。

10 作成を完了したら **【OK】** をクリックします。

以上でアプリケーションがインストールされ、サイトの Web ページ（例えばホームページ）にこのアプリケーションへのリンクを挿入できます。ここでリンクを挿入しないと、このアプリケーションを利用するためにはいつも、長すぎて覚えられない URL を入力しなければなりません。

アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。

- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com/forum/>。
- **【ホーム】** > **【ドメイン名】** > **【アプリケーションヴォルト】** に行き、希望のアプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。
- アプリケーションをインストールするとき、Plesk コントロールパネルにハイパーリンクボタンを追加するには、ドメイン管理画面（**【ホーム】** > **【ドメイン名】**）またはナビゲーションペインにある各ボタンをクリックします。

アプリケーションを再設定したり、アプリケーション管理者のパスワードを変更するには、**【ホーム】** > **【ドメイン名】** > **【アプリケーションヴォルト】** に行き、そのアプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。

アプリケーションを削除するには、**【ホーム】** > **【ドメイン名】** > **【アプリケーションヴォルト】** に行き、必要のないアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。そして、**✗【選択対象を削除】** をクリックします。アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

Java Web アプリケーションのインストール

Java Web アプリケーションパッケージを Web アーカイブ形式 (WAR) でインストールできます。これらの Java アプリケーションは Plesk には同梱されておりませんので、別途入手する必要があります。

➤ **Java Web アプリケーションをインストールするには以下を実行してください。**

- 1 ホームページから [ドメイン名] > [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進み、[有効化] をクリックします。

すると、Web サーバと連動する Java コードに環境を提供する Tomcat サービスが開始します。




- 2 [新しいアプリケーションをインストール] をクリックします。
- 3 インストールしたいアプリケーションパッケージへのパスを指定するか（コンピュータのハードドライブに保存している WAR 形式のアプリケーションパッケージでも構いません）、[参照] をクリックして検索し、[OK] をクリックします。

これで Java アプリケーションはインストールされ、そのアプリケーションのリストにそれぞれの項目が追加されます（ [ドメイン名] > [Web アプリケーション] > [Java アプリケーション] ）。

➤ **Java Web アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- ホームページから [ドメイン名] > [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進み、[パス] カラムでそれぞれのハイパーリンクをクリックします。
- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com:9080/storefront/>

➤ **Java Web アプリケーションを停止、開始、再開するには、以下を実行してください。**

- 1 ホームページから [ドメイン名] > [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進みます。インストールされたアプリケーションのリストが開きます。
- 2 リストでアプリケーションを検索し、リストの右側にあるアイコンを使用して必要な操作を行って下さい。
 - アプリケーションを起動するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを停止するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを再起動するには、アイコン  をクリックします。

➤ **Java Web アプリケーションをアンインストールするには以下を実行してください。**

- 1 ホームページから [ドメイン名] > [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進みます。

- 2 不要になったアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。✕ [選択対象を削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

Ruby Web アプリケーションのインストール

Ruby プログラミング言語で開発されたカスタム Web アプリケーションをサイトにインストールすることができます。

➤ *Ruby で記述されたアプリケーションをサイトにインストールするには以下を実行してください。*

- 1 ホームページで必要なドメイン名を選択し、[ホスティング] から [設定] アイコンをクリックします。
- 2 [CGI] および [FastCGI] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。
- 3 FTPアカウントに接続して /htdocsディレクトリに変更し、アプリケーションファイルを置くサブディレクトリを作成します。ここではそのディレクトリを分かりやすいようにyour_applicationとします。
- 4 アプリケーションファイルをhtdocs/your_applicationディレクトリにアップロードします。
- 5 このディレクトリにファイルを .htaccess という名前で作成し、好きなテキストエディタで開き以下の行を追加します。

```
RewriteEngine On RewriteRule ^$ /public/index.html [L]
RewriteCond %{REQUEST_URI} !^/your_application/public

RewriteRule ^(.*)$ /public/$1 [L] RewriteCond
%{REQUEST_FILENAME} !-f RewriteRule ^(.*)$
public/dispatch.fcgi/$1 [QSA,L]
```

- 6 ファイルを保存します。
- 7 ファイルyour_application/public/.htaccessを削除します。
- 8 ファイルyour_application/public/dispatch.fcgiをテキストエディタで開き以下の行を追加します。 #!/usr/bin/ruby
- 9 ファイルを保存します。

これで Web アプリケーションが以下の URL からアクセスできるようになります。
http://your-domain.com/your_application

SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護

クライアントが E-コマースビジネスを運営している場合、クライアントのサイトと顧客間でのトランザクションを安全に行うことが必要です。クレジットカード番号やその他の個人情報など価値の高いデータが盗まれないようにするためには、Secure Sockets Layer プロトコルを使用して下さい。これはデータをすべて暗号化し、SSL 接続により安全に転送します。また、たとえ誰かが悪意でデータを傍受しても、そのデータを解読し使用することはできないでしょう。

Web サーバにセキュアソケットレイヤープロトコルを実装するには、信頼できる認証ベンダー（このようなベンダーを認証局という）から SSL 証明書を購入し、サイトにこの証明書をインストールして下さい。SSL 保護を有効にするには、他の Web サイトと共有しない専用の IP アドレス上にサイトを設置する必要があります。

認証局は多くありますので、その中から選んで下さい。選択時には認証局の評判や信用性を考慮します。認証局の運営年数や顧客数などについて調べておくと、選択時に役立つことでしょう。

Plesk コントロールパネルでは、GeoTrust, Inc から SSL 証明書を購入できるようになっています。


SSL 証明書をジオトラスト社から入手してインストール

- *MyPleskCom オンラインストアを通じて SSL 証明書を購入し、サイトを保護するには、以下の操作を実行します。*
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [証明書] をクリックします。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
- 3 [新しい証明書の追加] をクリックします。
- 4 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにして下さい。例：www.your-domain.com。
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。

- 5 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
- 6 **【証明書を購入】** をクリックします。 秘密鍵と証明書署名リクエストが生成されますので、これは削除しないでください。 MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。
- 7 既存のMyPlesk.comアカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
- 8 購入したい証明書の種類を選択します。
- 9 **【購入する】** をクリックし、証明書を注文します。 **【承認者メールアドレス】** ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。
- 10 承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。
- 11 証明書リクエストが処理されるとジオトラスト社から確認のメールが送信されます。 ユーザからの確認を受け取った後、そのユーザのメールアドレス宛に証明書を送信します。
- 12 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
- 13 SSL証明書レポジトリへ戻ります（ **【ホーム】** > **【ドメイン名】** > **【証明書】** ）。
- 14 ページの中央にある **【参照】** をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。 証明書をクリックし、 **【ファイル送信】** をクリックします。 対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。
- 15 ドメイン管理者画面に戻り（ **【ホーム】** > **【ドメイン名】** ）、 **【ホスティング】** グループにある **【設定】** アイコンをクリックします。
- 16 **【証明書】** ドロップダウンボックスからインストールするSSL証明書を選択します。

ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は **【証明書】** ドロップダウンボックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用IPアドレスを購入する必要があります。
- 17 **【SSLサポート】** チェックボックスを選択し、 **【OK】** をクリックします。

SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール

- **他の認証局からの SSL 証明書を使用してサイトを保護するには、以下の操作を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [証明書] をクリックします。 リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
 - 3 [新しい証明書の追加] をクリックします。
 - 4 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。 SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。 1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。 入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。 省略形でないものにしてください。 例: www.your-domain.com。
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。
 - 5 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
 - 6 [リクエスト] をクリックします。 秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、レポジトリに格納されます。
 - 7 証明書署名リクエスト (CSR) ファイルをダウンロードし自分のマシンに保存します。 その実行には、それぞれの  アイコンをクリックします。
 - 8 ダウンロードが完了したら、ファイルをテキストエディタで開き、-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- と -----END CERTIFICATE REQUEST----- で囲まれたテキストをクリップボードにコピーします。
 - 9 お好みのメールクライアントソフトウェアを使用し、新しいメールメッセージを作成し、テキストをクリップボードから貼り付けます。 このメッセージを認証局に送信します。 認証局はあなたが提供した情報に応じて SSL 証明書を作成します。
 - 10 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
 - 11 SSL 証明書レポジトリへ戻ります ([ホーム] > [ドメイン名] > [証明書]) 。
 - 12 ページの中央にある [参照] をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。 証明書をクリックし、[ファイル送信] をクリックします。 対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。

- 13 ドメイン管理者画面に戻り（ [ホーム] > [ドメイン名] ）、 [ホスティング] グループにある [設定] アイコンをクリックします。
- 14 [証明書] ドロップダウンボックスからインストールするSSL証明書を
選択します。
ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は [証明書] ドロップダウンボ
ックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレー
ドしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
- 15 [SSLサポート] チェックボックスを選択し、 [OK] をクリックします。

無料の自己署名 SSL 証明書の作成とインストール


顧客が証明書を購入する必要がなく、接続セキュリティが必要になる場合、自己署名証明書を作成し、Web サーバにインストールできます。この機能によりデータを暗号化できますが、顧客のブラウザには、認証された機関により証明書が発行されていないことを伝える警告メッセージが表示されます。このように、自己署名証明書の使用は顧客から信用を得られず、顧客のオンライン販売に悪影響を及ぼす可能性があるため、推奨されません。

➤ **サイトを自己署名 SSL 証明書で保護するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [証明書] をクリックします。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
- 3 [新しい証明書の追加] をクリックします。
- 4 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメイン名を指定します 例えば、以下のようになります。
www.your-domain.com。
 - ドメインオーナーのメールアドレスを入力します。
- 5 [自己署名] をクリックします。証明書が生成され、リポジトリに格納されます。
- 6 ドメイン管理者画面に戻り（[ホーム] > [ドメイン名]）、[ホスティング] グループにある [設定] アイコンをクリックします。
- 7 [証明書] ドロップダウンボックスから、自己署名 SSL 証明書を選択します。

ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は [証明書] ドロップダウンボックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
- 8 [SSL サポート] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

証明書をサイトからアンインストール

- 証明書をサイトからアンインストールし、SSL 保護を無効にするには、以下の操作を実行します。
- 1 削除する必要がある証明書が使用中でないことを確認します。
 - 2 ホームページで必要なドメイン名をクリックし、[設定] アイコンをクリックします。 [証明書] ドロップダウンボックスに、現在使用中の SSL 証明書が表示されます。
 - 3 削除が必要な証明書が現在使用中の場合は、まずこの証明書をリリースしてください。 [証明書] ドロップダウンボックスで別の証明書を選択し [OK] をクリックします。
 - 4 リポジトリから証明書を削除します。
 - 5 証明書をリポジトリから永久に削除するにはホームページで、必要なドメイン名をクリックしてから [サービス] グループで [証明書] をクリックします。
 - 6 不要になった証明書に対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] アイコンをクリックします。
 - 7 削除を確認して [OK] をクリックします。
 - 8 SSL サポートが不要になった場合は、無効にします。
 - 9 ホームページで必要なドメイン名をクリックし、[設定] アイコンをクリックします。
 - 10 [SSL サポート] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限

許可されたユーザにのみ表示される URL がサイトにある場合、これらの URL へのアクセスをパスワード保護で制限します。

リソースの保護

サイト内のディレクトリをパスワード保護し、許可されたユーザを指定するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング]グループの[ディレクトリ]アイコンをクリックします。
- 3 [新しいディレクトリの追加] をクリックします。
- 4 パスワード保護の必要なディレクトリのパスを指定します。
これは例えば `/private` のように、サイト内に存在するディレクトリになります。保護の必要なディレクトリが作成されていない場合、パスとディレクトリ名を指定すると、自動的に作成されます。
- 5 パスワードで保護されたディレクトリの現在または今後の配置先（別名ドキュメントroot）を指定します。例えば、以下のようになります。
 - `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [非 SSL] チェックボックスを選択します。
 - `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [SSL] チェックボックスを選択します。
 - `cgi-bin` ディレクトリに保存された CGI スクリプトを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスの「/」をそのままにして [cgi-bin] チェックボックスを選択します。スラッシュ記号の後に空白は入っていないか確認してください。空白が入っている場合、空白を含む名前を保護付きディレクトリが作成されます。
- 6 [ヘッダーテキスト] ボックスに、リソースの詳細または管理者の顧客が保護付き領域を訪問したときに表示されるウェルカムメッセージを入力します。
- 7 [OK] をクリックします。指定したディレクトリは保護されます。
- 8 許可されたユーザを追加するには、[新規のユーザを追加] をクリックします。
- 9 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5~14個の記号を使用します。 [OK] をクリックします。
- 10 この保護されたリソースに対して、許可されたユーザを追加するには、ステップ7と8を繰り返します。

許可されたユーザの指定

保護されたディレクトリに認証ユーザを追加するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング]グループの[ディレクトリ]アイコンをクリックします。
- 3 必要なディレクトリ名をクリックします。
- 4 [新規ユーザの追加] アイコンをクリックします。
- 5 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5~14個の記号を使用します。
- 6 [OK] をクリックします。

保護されたディレクトリに許可されたユーザのパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング]グループの[ディレクトリ]アイコンをクリックします。
- 3 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
- 4 ユーザ名をクリックします。
- 5 新しいパスワードを指定し、確認のために再入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

ユーザが保護されたディレクトリにアクセスするための権限を無効にするには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング]グループの[ディレクトリ]アイコンをクリックします。
- 3 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
- 4 ユーザ名に対応するチェックボックスを選択します。
- 5 **×** [選択対象を削除] をクリックします。操作を確認して [OK] をクリックします。

リソースの非保護

パスワード保護を削除し、リソースを一般ユーザが利用できるようにするには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング]グループの[ディレクトリ]アイコンをクリックします。パスワードで保護されたディレクトリのリストが開きます。
- 3 保護を削除するディレクトリ名に対応するチェックボックスを選択します。
- 4 **×** [選択対象を削除] をクリックします。保護が削除され、ディレクトリの内容は無制限に一般に公開されます。

サブドメインを含むサイト構造の編成

サブドメインは以下の作業を可能にする、補足的なドメイン名です。

- サイトの構造の論理的な編成
- 同じサーバ上の追加 Web サイトまたは Web サイトの一部をホストし、追加ドメイン名の登録に要する支払いを節減できます。

サブドメインを使用した例を以下に示します。

Web サイト `your-product.com` を、ソフトウェア製品の販売促進専用のサイトに設定しているとします。ユーザズガイド、チュートリアル、よくある質問のリストを公開する場合、管理者のユーザがドメイン名 `userdocs.your-product.com` に直接アクセスしてオンラインドキュメントにアクセスできるように、サブドメイン「userdocs」を編成することができます。

サブドメインの設定

サブドメインを設定するには、以下を実行してください。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[サブドメイン]** アイコンをクリックします。
- 3 **[新規サブドメインの追加]** アイコンをクリックします。
- 4 任意のサブドメイン名を入力します。サイトのトピック、組織の部署、またはその他の文字、数字、ハイフンの組み合わせなどを入力できません（最長63文字）。

サブドメイン名の先頭文字はアルファベット文字です。サブドメイン名は大文字と小文字を区別します。

- 5 このサブドメインが管理者が独自に管理している管理者用のWebサイトを部分的に保有している場合、**[親ドメインのFTPユーザアカウントを使用]** オプションを選択したままにしておきます。このサブドメインが、別の人物に属する、または別の人物により管理される別のWebサイトを保持している場合、**[このサブドメインに別のユーザアカウントを作成する]** オプションを選択し、FTPを通じてWebスペースにアクセスし、Webサイトのコンテンツを公開する場合に使用するログイン名とパスワードを指定します。
- 6 このサブドメインがセキュアなトランザクションを要求する場合、**[SSLサポート]** チェックボックスを選択します。これにより、親ドメインの下でインストールされたSSL証明書が、暗号化トランザクションに使用されます。

デフォルトでは、ユーザがサイトを公開する場合、`httpsdocs` ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならないWebコンテンツおよびプレーンHTTPを経由して`httpdocs` ディレクトリにアクセスできるようにしなければならないWebコンテンツをアップロードする必要があります。便宜上、単一の場所すなわち`httpdocs` ディレクトリを通じてすべてのコンテンツを公開する方法を選択できます。このために、**[SSL および非 SSL コンテンツの格納用に単一ディレクトリを使用する]** チェックボックスを選択します。

- 7 Webサイトを作成する際に使用するプログラミング言語を指定します。これを指定しない場合、Webサイトが正しく機能しない場合があります。

例えば、Webサイトが主にASPで作成され、アプリケーションヴォルトのアプリケーションなど（**[ホーム]** > **[ドメイン名]** > **[アプリケーションヴォルト]**）、PHPで作成された複数のアプリケーションを使用している場合、**[ASPサポート]** チェックボックスと**[PHPサポート]** チェックボックスを選択します。

- 8 このサブドメイン内のWebコンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、**[ハードディスククォータ]** ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

指定された制限を超えた場合、Web スペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集時にファイルが破損する場合があります。

- 9 [OK] をクリックして設定を完了します。新しいサブドメインに関する情報がドメイン名システム (DNS) 内に伝わり、インターネットユーザが利用できるようになるまで、最大48時間を要します。

サブドメインの Web スペースに Web コンテンツを公開するには、[サイトの公開] 『ページ数44』 のセクション内の手順に従って下さい。

サブドメインの削除

- サブドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サブドメイン] をクリックします。
 - 3 削除するサブドメイン名に対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] アイコンをクリックします。
 - 4 削除を確認して [OK] をクリックします。サブドメインのコンフィグレーションとその Web コンテンツがサーバから削除されます。

サイトの追加ドメイン名の設定（ドメインエイリアス）

ドメイン名レジストラに、サーバでホストしている同一の Web サイトを示す複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。

別のサーバでホストされる Web サイトを示す複数のドメイン名を提供する必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。手順については、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」『ページ数85』セクションをご参照ください。

ドメインエイリアスの設定

➤ **ドメインエイリアスを設定するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページで追加のドメイン名を設定したいドメイン名をクリックします。
- 2 [ドメインエイリアス] アイコンをクリックします。
- 3 [ドメインエイリアスを追加] アイコンをクリックします。
- 4 希望するドメインエイリアス名を入力します(例 : alias.com)。

ドメインエイリアスには、文字、数字、ハイフンを使用できます。ドメインエイリアスのドット間の各部分には、63 個以下の記号を使用します。

- 5 ドメインエイリアスでプライマリドメインと同じ DNS ゾーンリソースレコードを使用したい場合は、[DNS ゾーンをプライマリドメインと同期化] チェックボックスを選択します。この設定により、今後プライマリドメインゾーンのリソースレコードに変更があった場合、それがこのドメインエイリアスの DNS ゾーンに適用されます。
- 6 ドメインエイリアスの下のメールアドレスで送信されたメールを、オリジナルドメイン名の下のメールアドレスにリダイレクトする場合、[メール] チェックボックスを選択します。

例 : mail@yourdomain.com というメールアドレスを保有し、ドメイン名に alias.com などのエイリアスを設定しているとします。この場合、mail@alias.com に送信された、メールボックス mail@yourdomain.com へのメールを受け取るには、[メール] チェックボックスを選択します。

- 7 [Web] チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ブラウザにドメインエイリアスを入力して管理者のサイトを訪問したユーザに、Web コンテンツを表示しません。

- 8 サイトにJavaアプリケーションをインストールしていて、ドメインエイリアスからアクセスできるようにしたい場合は、[Java Webアプリケーション] チェックボックスを選択します。
- 9 [OK] をクリックします。

ドメインエイリアスのプロパティの修正

➤ **エイリアスのプロパティを変更するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ドメインエイリアス] をクリックします。
- 3 必要なエイリアス名をクリックします。
- 4 [ツール] グループの [選択設定] をクリックします。

➤ **ドメインエイリアスのDNS ゾーンのリソースレコードを変更するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ドメインエイリアス] をクリックします。
- 3 必要なエイリアス名をクリックします。
- 4 [DNS設定] をクリックします。
- 5 必要に応じてリソースレコードを追加、編集、削除します。
 - ゾーンにリソースレコードを追加するには、[新規レコードの追加] をクリックします。必要な値を指定し、[OK] をクリックしてゾーンに値を書き込みます。
 - リソースレコードを変更するには、[ホスト] 列で必要なレコードに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - レコードを削除するには、削除するレコードに対応するチェックボックスを選択し **X** [選択対象を削除] をクリックします。

ドメインエイリアスの削除

- **ドメインからエイリアスを削除するには、以下の操作を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ドメインエイリアス] をクリックします。
- 3 削除したいドメインエイリアスに対応するチェックボックスを選びます。
- 4 **✕** [選択対象を削除] をクリックします。
- 5 削除を確認して [OK] をクリックします。

Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング

専用のドメイン名を必要としない個人の個人用 Web ページは、管理者 Web サーバでホストできます。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関で使用されています。

これらのページの Web アドレスは、通常は<http://your-domain.com/~username>のようになりますが、<http://username@your-domain.com>など、必要に応じて別の Web アドレスで個人用 Web ページを設定できます。

➤ **サーバで個人用 Web ページを追加するには、別の Web スペースを割り当て、公開用の FTP アカウントを設定します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [Webユーザ] をクリックします。
- 3 [選択設定] をクリックします。
- 4 デフォルトでは、個人用の Web ページのアドレスは <http://your-domain.com/~username> のようになります。
<http://username@your-domain.com> など、別の Web アドレスを使用した個人用 Web ページへのアクセスを許可する場合、[webuser@example.com アクセス形式を許可] チェックボックスを選択します。
- 5 個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、[Web ユーザーへのスクリプトの使用の許可] チェックボックスを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

ステップ 3 と 4 で定義した設定は、管理者の Web サーバでホストするすべての個人用 Web ページに共有です。従って、次に個人用 Web ページの Web スペースを設定する場合は、ステップ 3 と 4 を実行する必要はありません。

- 7 [新しい Web ユーザを追加] をクリックします。
- 8 FTP を使用して Web スペースにアクセスし、Web ページを公開する場合に使用するユーザ名とパスワードを指定します。

ユーザ名には小文字の英数字、ハイフン、アンダースコア記号のみ使用できます。ユーザ名の先頭文字はアルファベット文字です。空白を含めることはできません。パスワードにはクォーテーションマーク、空白、ユーザのログイン名を使用できません。長さは 5~14 文字とします。

- 9 Web ページでサポートされるプログラミング言語を指定します。

例えば、Web ページが PHP で作成されている場合、[PHP サポート] チェックボックスを選択します。

- 10 このWebページコンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、[ハードディスククォータ] ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

- 11 [OK] をクリックします。

これで、FTP アカウントの信用情報がユーザに伝えられ、ユーザが自分の Web ページを公開できるようになります。

Web ページオーナーの FTP パスワードの変更

➤ Web ページオーナーの FTP パスワードを変更するには、以下の操作を実行します。


- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [Webユーザ] をクリックします。
- 3 必要なユーザ名をクリックします。
- 4 [新規パスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
- 5 [OK] をクリックします。

Web ページオーナーへのディスク容量の割り当ての増加

➤ Web ページオーナーへのディスク容量割り当てを増やすには、以下を実行してください。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [Webユーザ] をクリックします。
- 3 必要なユーザ名をクリックします。
- 4 [ハードディスククォータ] ボックスに、ディスク容量をメガバイトで入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

Web ページオーナーのアカウントの削除

- Web ページオーナーのアカウントをそのWeb ページとともに削除するには、以下の操作を実行します。
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [ホスティング] グループの [Webユーザ] をクリックします。
 - 3 削除するユーザ名の右側にあるチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] アイコンをクリックします。
 - 4 削除を確認して [OK] をクリックします。

サーバへの anonymous FTP アクセスの設定

専用の IP アドレス上のサイトをホストしている場合、他のユーザが FTP を使用して匿名でファイルをダウンロードまたはアップロードできるディレクトリを、サイト内に設定できます。 anonymous FTP が有効になると、ユーザは「anonymous」ログイン名と任意のパスワードを使用して <ftp://ftp.your-domain.com> にログインできるようになります。

anonymous FTP アクセスを許可するには、以下を実行してください。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[Anonymous FTP]** アイコンをクリックします。
- 3 anonymous FTP サービスを有効にするには、**[有効化]** をクリックします。
- 4 ユーザが FTP サイトにログインしたときに表示されるウェルカムメッセージを設定するには、**[ログインメッセージを表示する]** チェックボックスを選択し、入力フィールドに任意にメッセージテキストを入力します。

全ての FTP クライアントがウェルカムメッセージを表示するとは限りません。

- 5 ビジターに `/incoming` ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、**[incoming ディレクトリへのアップロードを許可する]** チェックボックスを選択します。
- 6 ビジターに `/incoming` ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、**[incoming ディレクトリへのアップロードを許可する]** チェックボックスを選択します。
- 7 `/incoming` ディレクトリへのサブディレクトリの作成をユーザに許可するには、**[incoming ディレクトリ内でのディレクトリ作成を許可する]** チェックボックスを選択します。
- 8 アップロードされたファイルが使用できるディスク容量を制限するには、**[incoming ディレクトリのディスク容量を制限する]** オプションに対応する **[無制限]** チェックボックスをクリアし、容量をキロバイトで指定します。

これがハードクォータです。この制限に達したとき、ユーザはディレクトリにファイルを追加できなくなります。

- 9 anonymous FTP サーバへの同時接続数を制限するには、**[同時接続の数を制限する]** オプションに対応する **[無制限]** チェックボックスをクリアし、許可される接続数を指定します。

10 anonymous FTP接続の帯域幅を制限するには、**【このバーチャルFTPドメインのダウンロード帯域幅を制限する】** オプションに対応する **【無制限】** チェックボックスをクリアし、最大帯域幅を1秒当たりのキロバイト数で入力します。

11 **【OK】** をクリックします。

anonymous FTP サーバの設定を変更する、または anonymous FTP サーバをオフにするには、以下を実行してください。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **【Anonymous FTP】** アイコンをクリックします。
- 3 必要に応じて設定を調整し **【OK】** をクリックします。Anonymous FTP サービスを無効にするには、**【ツール】** グループの **【無効化】** アイコンをクリックします。

Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ

サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。標準のエラーメッセージにより問題が伝えられる場合がありますが、通常は問題の解決方法または問題の発生したビジターが通常の作業に戻る方法は述べられず、明確になりません。

個人用のエラーページを作成し、個人の Web サーバで使用することができます。Plesk では、以下のエラーメッセージをカスタマイズできます。

- 400 Bad File Request. 通常は URL で使用される構文の間違い（大文字は小文字にする、句点の間違いなど）を意味します。
- 401 Unauthorized サーバはクライアントからの暗号化キーを要求していますが取得できません。また、入力したパスワードが間違っている場合があります。
- 403 Forbidden/Access denied 401 に類似したエラーです。サイトにアクセスするために特別な許可（登録の場合にはパスワードおよび/またはユーザ名）が必要になります。
- 404 Not Found サーバは要求されたファイルを検索できません。ファイルは移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が間違っています。これは最も一般的なエラーです。
- 500 Internal Server Error サーバコンフィグレーション上の問題により、HTML 文書を取得できませんでした。

カスタムエラーページを表示するように Plesk の Web サーバを設定するには、以下の操作を実行します。

- 1 Plesk でカスタムエラー文書のサポートをオンにします。ホームページで必要なドメイン名をクリックし、**[設定]** アイコンをクリックします。**[カスタムエラー ドキュメント]** チェックボックスを選択します。**[OK]** をクリックします。
- 2 Plesk にリモートアクセスする場合、Plesk サーバの自身の FTP アカウントに接続し `error_docs` ディレクトリに移動します。Plesk にローカルアクセスする場合、ディレクトリ `/vhosts/your-domain.com/error_docs/.` に移動します。
- 3 各ファイルを編集または置き換えます。正しいファイル名が維持されていることを確認します。
 - 400 Bad File Request - `bad_request.html`
 - 401 Unauthorized - `unauthorized.html`

- 403 Forbidden/Access denied - forbidden.html
 - 404 Not Found - not_found.html
 - 500 Internal Server Error - internal_server_error.html
- 4 Webサーバの再起動が始まるまで数時間待機します。その後、Webサーバはエラードキュメントを使用して起動します。

ドメインのDNSゾーン設定のカスタマイズ

新しいドメイン名ごとに、コントロールパネルにより、プロバイダが定義した構成事前設定に従って自動的にDNSゾーンが作成されます。ドメイン名は自動設定に適合する必要がありますが、ドメイン名ゾーンのカスタム変更を実行する必要がある場合、これをコントロールパネルを使用して行うことができます。

ドメインのDNSゾーンのリソースレコードを表示するには、ホームページでドメイン名をクリックして [サービス] グループの [DNS 設定] をクリックします。画面に選択したドメインの全てのリソースレコードが表示されます。

ドメインエイリアスのDNSゾーンのリソースレコードを修正する方法については、「サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス)」 『ページ数70』セクションを参照してください。

リソースレコードの表示

ドメインのDNSゾーンのリソースレコードを表示するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。画面に所定のドメインの全てのリソースレコードが表示されます。

リソースレコードの追加

ゾーンに新しいリソースレコードを追加するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [新しいレコードを追加] アイコンをクリックします。
- 4 リソースレコードのタイプを選択し、適切なデータを指定します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために A レコードを設定する場合は、入力フィールドは空欄にして下さい。A レコードをネームサーバのために設定する場合は、ネームサーバのための適切な入力(例: ns1)をする必要があります。次に適切なドメイン名と関連づける IP アドレスを入力します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために NS レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にして下さい。次に適切なネームサーバの名前を入力フィールドに入力します。この名前はフルネームである必要があります(例: ns1.mynameserver.com)。
 - MX レコードでは MX レコード作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために MX レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にして下さい。次にメールエクスチェンジャを入力します。これはあなたのメールサーバの名前です。リモートで'mail.myhostname.com'という名前のメールサーバを稼働させている場合は、'mail.myhostname.com'と入力フィールドに入力します。次にメールエクスチェンジャの優先度を設定する必要があります。ドロップダウンボックスを使用して、優先度を選択します。0 が最高の優先度、50 が最低の優先度となります。リモートのメール交換サーバを使用する場合は、適切な A レコードおよび/または CNAME レコードを追加する必要があります。
 - CNAME レコードでは、まず CNAME レコードを作成するエイリアスドメイン名を入力します。次にエイリアスをつけるドメイン名を入力します。どのようなドメイン名を入力することも可能です。これは同じサーバ上である必要はありません。
 - PTR レコードでは、まずポインタを設定する IP アドレス/マスクを入力します。次にこの IP を移送する適切なドメイン名を入力します。
 - TXT レコードでは、SPF レコードの説明など、任意のテキスト文字列を入力できます。
- 5 [OK] をクリックしてデータを送信します。

リソースレコードの変更

リソースレコードのプロパティを修正するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 修正したいリソースレコードに対応する [ホスト] 列内のハイパーリンクをクリックします。
- 4 必要に応じてレコードを修正し [OK] をクリックします。

ドメインの SOA レコード内のエントリを修正するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 [SOA選択設定] をクリックします。
- 4 希望する値を指定します。
 - [TTL] 他の DNS サーバがそのレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 日です。
 - [更新] セカンダリネームサーバがプライマリネームサーバに対して、ドメインゾーンのファイルへ何か変更が加えられたかどうかを確認する頻度です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
 - [再試行] セカンダリサーバが失敗したゾーン転送を再試行するまで待つ時間です。この時間は更新インターバルよりは短いのが普通です。Plesk のデフォルト値は 1 時間です。
 - [期限切れ] そのゾーンが変更または更新されなかった場合、更新インターバルが経過した後、セカンダリサーバが問い合わせに回答するのを止めるまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 週間です。
 - [最小値] セカンダリサーバが負の応答をキャッシュするまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
- 5 [OK] をクリックします。

リソースレコードの削除

- ゾーンからリソースレコードを削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [DNS設定] をクリックします。
 - 3 削除したいレコードに対応するチェックボックスを選びます。
 - 4 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 5 削除を確認して [OK] をクリックします。

元のゾーン設定の復元

サーバ規模の DNS 設定に従って、元のゾーン設定を復元するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 3 [IPアドレス] ドロップダウンボックスで、そのゾーンを復元するために使う IP アドレスを選択して、wwwエイリアスがそのドメインに必要なかどうかを指定して [デフォルト] ボタンをクリックします。ゾーン設定が再作成されます。

外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給

このサーバ上で Web サイトをホスティングし、そのサイトのプライマリ（マスタ）ネームサーバとして機能するスタンドアロン DNS サーバがある場合は、コントロールパネルの DNS サーバが、セカンダリ（スレーブ）ネームサーバとして機能するように設定する必要があることもあります。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [DNS設定] をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [切り替え] をクリックします。
- 4 プライマリ（マスタ）DNSサーバのIPアドレスを指定します。
- 5 [追加] をクリックします。
- 6 サーバ上でセカンダリネームサーバを持つ必要があるWebサイトごとに、1から5のステップを繰り返します。

➤ **コントロールパネルのDNSサーバをあるゾーンのプライマリとして機能させるには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [DNS設定] をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [切り替え] をクリックします。そのゾーンの元のリソースレコードが復元されます。

Web サイトの中に外部ネームサーバ権限を持つものがある場合、外部ネームサーバによって使用されるサイトごとのコントロールパネル DNS サービスをオフにします。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [DNS設定] をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [無効化] をクリックします。ゾーンのDNSサービスを無効にすると、画面が更新されるので、ネームサーバのリストだけが残ります。

注： リストにあるネームサーバのレコードは、システムに何の影響も与えません。ネームサーバのレコードは画面上に表示され、それらをクリックすると、外部権限を持つネームサーバ上にゾーンの設定が維持されていることを確認することができます。

- 4 外部ネームサーバによって使用されているサイトごとに、1から3のステップを繰り返し、ローカルドメインネームサービスを無効にします。
- **権限のあるネームサーバ上に維持されているゾーンの設定を確認したい場合は、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[DNS設定]** をクリックします。
- 3 そのゾーンに対して権限のある適切なネームサーバをポイントするエントリをリストに追加します。 **[追加]** をクリックしてネームサーバを指定し **[OK]** をクリックします。 テストしたいネームサーバごとにこれを繰り返します。

レコードがリスト内に表示されます。

- 4 作成したレコードをクリックします。 Pleskは、リモートネームサーバからゾーンファイルを検索し、リソースレコードをチェックして、ドメインのリソースが正しく解決されるようにします。

結果が解釈され、画面上に表示されます。

他のサーバにホストされているサイトの ドメイン名の使用（ドメイン転送）

他のサーバにホストされている Web サイトをポイントするドメイン名（複数の場合も含めて）を使用する必要がある場合は、以下を実行します。

- 1 ホームページで **【新規ドメインの追加】** をクリックします。
- 2 ドメイン名を指定します。

ユーザが例えば www.your-domain.com のような共通・常用の URL によってサイトへアクセスすることを許可するには、**【www】** チェックボックスを選択したままにします。ドメイン名の前に www エイリアスをつけると、ユーザがブラウザに何を入力しても、そのサイトへ行くことができます。 www.your-domain.com と your-domain.com、どちらもそのサイトをポイントします。

- 3 **【テンプレートの選択】** メニューの **【テンプレートなしでドメインを作成】** オプションを選択したままにします。
- 4 選択先の IP アドレスの数がある場合、**【IP アドレスの選択】** ドロップダウンボックスから必要なアドレスを選択します。

SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトは IP アドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることにご注意ください。

- 5 **【ホスティング設定に進む】** チェックボックスがチェックされていることを確認して、**【OK】** をクリックします。
- 6 転送タイプを選択します。**【フレーム転送】** または **【スタンダード転送】** オプションのいずれかを選択します。

スタンダード転送では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へリダイレクトされていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずにリダイレクトされます。従って **【フレーム転送】** が望ましいのです。

- 7 **【OK】** をクリックします。
- 8 転送先の URL を指定します。このドメインがポイントしてほしい現在の Web サイトのアドレスです。
- 9 **【OK】** をクリックします。
- 10 1 から 9 までのステップを繰り返し、必要に応じた数だけドメイン転送先を追加します。

ドメインの保留と保留解除

➤ **ドメインおよびWeb サイトを保留するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[無効化]** アイコンをクリックします。

ドメインおよびWeb サイトは保留されます。そのWeb、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。

➤ **ドメインおよびWeb サイトの保留を解除するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[有効化]** をクリックします。

ドメインの削除

➤ **ドメインとそのWeb コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページで、削除したいドメイン名に対応するチェックボックスを選びます。
- 2 **✖ [選択対象を削除]** をクリックして、削除を確認し **[OK]** をクリックします。

➤ **サブドメインとそのWeb コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[ホスティング]** グループの **[サブドメイン]** アイコンをクリックします。
- 3 削除したいサブドメインに対応するチェックボックスを選びます。
- 4 **✖ [選択対象を削除]** をクリックして、削除を確認し **[OK]** をクリックします。


章 6

ホスティングアカウントの管理

この章ではホスティングアカウントの管理方法についてご説明致します。

ホスティングアカウントのアップグレード

単独のドメインまたは Web サイトの設定を修正するには以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 より多くのディスク容量や帯域幅やその他のリソースを割り当てるには、**[ドメイン]** グループの **[制限]** アイコンをクリックして必要に応じて以下の設定を調整してください。
 - **サブドメインの上限数。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
 - **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されます。全てのドメインおよび Web サイトに関連する全てのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。Web サイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。超過すると、ドメイン名や Web サイトは自動的に停止されることはなく、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコン  に示されます（ホームページのドメイン名のリストをご参照ください）。
 - **トラフィックの上限量。** 1 ヶ月間に Web サイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。制限量に達すると、ご自身とプロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量は名前の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンに示されます（ホームページのドメイン名のリストをご参照ください）。
 - **Web ユーザの上限数。** ドメインオーナーが自身のドメインの下の他のユーザのためにホストできる個人 Web ページ数を指定します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、**[Web ユーザーへのスクリプトの使用の許可]** チェックボックスも選択してください。

- **データベースの上限数** 1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
- **メールボックスの上限数。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** 1つのドメイン内の各メールボックスに割り当てられるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メールフォワーダの上限数** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
- **メール自動応答の上限数。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
- **メーリングリストの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされたGNU Mailmanソフトウェアにより提供されます。使用したいにもかかわらずインストールされていない場合にはプロバイダにインストールを依頼してください。
- **Java アプリケーションの上限数。** ドメインオーナーが1つのドメインにインストールできるJavaアプリケーションまたはアプレットの数上限数を指定します。
- **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメインおよびWebサイトは停止されます。そのWeb、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。

3 [OK] をクリックします。

4 ホスティングの機能を追加するには（プログラミング言語やスクリプトへの対応など）、**[ホスティング]** グループの**[設定]** アイコンをクリックして以下の設定を必要に応じて調整してください。

- **IPアドレス。** 選択先のIPアドレスが複数ある場合、**[IPアドレスの選択]** ドロップダウンボックスから必要なアドレスを選択します。SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトはIPアドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることを忘れないでください。
- **SSL 対応。** Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化は一般に専用IPアドレス上で実行されるe-コマースWebサイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加するSSL認証は、通常単一のIPアドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSLプロテクションを必要とする各サイトは専用IPアドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかのWebサイトをホストするWebサーバ上にSSL認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとすると、ユーザに警告メッセージが表示されます。Webサイト用のSSL暗号化を許可するには、**[SSL 対応]** チェックボックスを選択してください。

- **証明書** 選択先の SSL 証明書が複数ある場合、この Web サイトのオンライン取引を暗号化するため Web サーバが使用している SSL 証明書を選択してください。
- **SSL コンテンツおよび非 SSL コンテンツを格納する為の単一のディレクトリの使用** デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所 (httpdocs ディレクトリ) を通じて全てのコンテンツを公開するのに便利のように、**[SSL および非 SSL コンテンツの格納用に単一ディレクトリの使用]** チェックボックスを選択してください。
- **FTP ログインおよび FTP パスワード** FTP 経由のサーバへのサイトを発行するのに使用するユーザ名およびパスワードを指定します。**[パスワードの確認]** ボックスでパスワードを再入力してください。
- **ハードディスククォータ** このサイトの Web スペースに割り当てるディスク容量をメガバイト単位で指定します。これは、制限に達した場合にさらに多くのファイルを Web スペースに書き込めないようにする、いわゆるハードクォータです。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。ハードクォータはサーバのオペレーティングシステムで有効化されます。**[ハードディスククォータ]** フィールドで「ハードディスククォータ対応なし」という旨のコメントが表示されていて、ハードクォータを使用したい場合は、プロバイダまたはサーバ管理者に連絡してクォータを有効にするよう依頼してください。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへの Shell アクセス** これにより、サイトオーナーは Secure Socket Shell 接続を通じて信頼性を持って Web コンテンツをサーバにアップロードできます。ただし、Shell アクセスを許可することによってもサーバセキュリティに対する潜在的な脅威がもたらされます。そこで、Shell アクセスを許可せずに **[禁止]** オプションを選択しておくことをお奨めします。
- **FrontPage 対応** Microsoft FrontPage は人気のある Web サイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、**[FrontPage 対応]** および **[FrontPage over SSL 対応]** チェックボックスを選択し、**[FrontPage オーサリング]** オプションを **[有効]** に設定して、**[FrontPage 管理者ログイン]** および **[パスワード]** を指定します。

- **動的 Web サイトおよびサーバサイド Web アプリケーションの開発に幅広く使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語が Web サーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Perl、Python、ColdFusion、および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト言語。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するよう設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。Web アプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はセーフモードをオフに切り替えてください(またはプロバイダにその旨依頼してください)。それには、ホスティングアカウントプロパティで [PHP 'safe_mode' on] チェックボックスの選択を外します ([ホスティング] グループで [ホーム] > [ドメイン名] > [設定] アイコン)。
- **Web 統計。** ドメインおよび Web サイトオーナーがサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、[Web 統計] および [パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/ 経由でアクセス可能] チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインや Web サイトのオーナーは自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、URL <https://your-domain.com/plesk-stat/> にある Web 統計にアクセスできます。
- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、[カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択します。

5 [OK] をクリックします。

ホスティングアカウントの更新

アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名や Web サイトを元の操作に戻す為に、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [制限] をクリックします。
- 3 [有効期間] ボックスに新しい期間を指定して [OK] をクリックします。
- 4 [ドメイン] グループの [有効化] をクリックします。

Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更

サーバ上のサイトを仮想（または物理的）ホスティングアカウントでホストしていて、それが他のサーバへ移動したためそのサイトについてはドメイン転送のみが必要になった場合は、そのホスティング構成を削除してホスティングアカウントを再構成してください。


ホスティングアカウントが移動するとそのサイトに関連する全てのファイルおよびディレクトリもサーバから移動するので、サイトオーナーは物理的ホスティングアカウントにあったサイトのホスティング構成を削除する前に、そのサイトがローカルにコピーしてあることを確認してください。

➤ **ホスティング構成の再構成には以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。そのサイトの関連する全てのディレクトリおよびファイルが移動します。
- 3 [設定] をクリックします。

注：ホスティングアカウントの設定について詳細は「Web サイトのホスティング」『ページ数32』の章をご参照ください。

多数のホスティングアカウントへの類似の変更の実行

- 多数のホスティングアカウントに対して同時にホスティングオプションを変更するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの[ドメイン]ショートカットをクリックします。
 - 2 一括操作を実行したいドメイン名に該当するチェックボックスを選択します。
 - 3  [一括操作] をクリックします。
 - 4 [制限] セクションにはすべてのドメイン特有の制限が表示されます。制限を変更するには、リストの左側で適切なメニューを選択します。必要に応じて、設定を調整して下さい。
 - 制限を削除するには[無制限]を選択します。
 - 具体的な値で制限を設定するには[値]を選択して指定の値を数字で入力します。
 - [増加(+)]を選択し、値の種類(具体的な単位またはパーセント)を選択して数値を入力し、指定の値(具体的な単位またはパーセント)だけ対応する限度を増加させます。
 - [減少(-)]を選択し、値の種類(具体的な単位またはパーセント)を選択して数値を入力し、指定の値(具体的な単位またはパーセント)だけ対応する限度を減少させます。
 - 変更しない場合には[変更しない]値が選択されたままにします。
 - 5 [ホスティング] セクションにはホスティングパラメータのリストが表示されます。ドメインの機能の可用性を変更するには、[有効化]または[無効化]するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない]を選択すると変更されません。
 - 6 [選択設定] セクションにはドメイン選択設定のリストが表示されます。ドメインの機能の設定を変更するには、[有効化]または[無効化]するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない]を選択すると変更されません。
 - 7 [サービス] セクションでは様々なドメインサービスの可用性を定義することができます。それには、[有効化]または[無効化]するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない]を選択すると変更されません。
 - 8 [OK] をクリックします。

ホスティングアカウントの保留と保留解除

➤ **ドメインおよびWebサイトを保留するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメインをクリックします。
- 2 **[無効化]** をクリックします。

ドメインおよびWebサイトは保留されます。そのWeb、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメインオーナーはコントロールパネルにログインできなくなります。

➤ **ドメインおよびWebサイトの保留を解除するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメインをクリックします。
- 2 **[有効化]** をクリックします。

ホスティングアカウントの削除

➤ **ドメインおよびWebサイトとそのWebコンテンツを削除するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページで、削除したいドメイン名に対応するチェックボックスを選びます。
- 2 **✕ [選択対象を削除]** をクリックして、削除を確認し **[OK]** をクリックします。

➤ **サブドメインとそのWebコンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **[ホスティング]** グループの **[サブドメイン]** をクリックします。
- 3 削除したいサブドメインに対応するチェックボックスを選びます。
- 4 **✕ [選択対象を削除]** をクリックして、削除を確認し **[OK]** をクリックします。

統計の表示

サイトが使用している帯域幅およびディスク容量を調べるには、ホームページ下部のドメイン名のリストから **【ディスク使用量】** および **【トラフィック】** 列をご覧ください。

サイトが使用している帯域幅の量について詳細な統計を調べたい場合は、ホームページの **【トラフィック】** をクリックして **【ドメイン名】** 列で調べたいサイト名をクリックして選択してください。

サイトの閲覧者数、閲覧元の国、およびサイトで閲覧されたページの内容を調べるには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **【レポート】** アイコンをクリックします。
- 3 サイトの特定のエリア間でダウンロードもしくはアップロードした Web ページまたはファイルの統計を閲覧するには、以下を実行します。
 - ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、**【Web 統計】** をクリックします。
 - 保護付きハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、**【Web 統計 SSL】** をクリックします。
 - ファイル転送プロトコル (FTP) で転送されたファイルの統計を表示するには、**【FTP 統計】** をクリックします。
 - 帯域幅利用量を月別に表示するには、**【トラフィック履歴】** アイコンをクリックします。
 - 帯域幅利用量をこのドメイン内の FTP 別、Web 別、メールサービス別に表示するには、**【トラフィック】** アイコンをクリックします。




注：アカウント上で Webalizer 統計パッケージを使用している場合、表示されるグラフレポートをカスタマイズすることができます。その手順については「Web 統計表示の選択設定の調整」『ページを参照96』セクションを参照してください。

または、次の URL を表示することによってサイトの Web 統計を確認できます。
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat> ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されたら、FTP アカウント信用情報を指定します。

特定のドメイン名や Web サイトで使用されるサーバリソースとホスティング機能に関する詳細レポートを表示するには、ホームページから必要なドメイン名をクリックして **【レポート】** アイコンをクリックしてください。レポートが表示されます。

全ての Web サイトおよびホスティングアカウントについての連結レポートを表示するには、ホームページから必要なドメイン名をクリックして **【レポート】** アイコンをクリックしてください。レポートが表示されます。

以下はレポートの共通操作です。

- 詳細を表示するには、[レポート] ドロップダウンメニューから [フルレポート] オプションを選択します。
- レポートに表示される情報の量を調整するには、[カスタマイズ] アイコンをクリックし、既存のレポートテンプレートを変更します（この場合、レポートテンプレート名をクリック）か、新しいレポートテンプレートを作成します（この場合、[新しいレイアウトを追加] アイコンをクリックします）。次に、レポートの各セクションに必要な情報の量を指定します。どの情報も必要としない場合は [なし] を、詳細な概要が必要な場合は [サマリー] を、詳細なレポートが必要な場合は [フル] をそれぞれ選択します。[デフォルトレポートとして使用] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。カスタムレポートレイアウトを削除するには、レポートレイアウト名の対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックします。
- レポートを印刷するには、 [印刷] アイコンをクリックします。別のブラウザウインドウにレポートが表示されます。ブラウザのメニューから [ファイル] > [印刷] オプションを選択して、レポートを印刷します。
- メールでレポートを送信するには、[レポート] グループの右側にある入力ボックスに受信者のメールアドレスを入力し、 [メールにより送信] アイコンをクリックします。自分が受信者である場合、メールアドレスを指定する必要がありません。システムはデフォルトで、使用中のユーザがレポート受信者と想定し、使用中のユーザのコントロールパネルアカウントに登録されたメールアドレスを指定します。
- レポートを毎日、毎週、または毎月自動的に生成し、メールで配信するには、[レポート送信] アイコンをクリックし、「レポート生成とメールによる配信の自動化」セクションの指示に従ってください。

Webalizer による Web 統計表示の選択設定の調整

デフォルトでは、統計ユーティリティは自分のサイトから、すなわち自分専用の Web ページから行った Web ページおよびその他のファイルに対する要求をカウントし、報告します。よって、ユーザのブラウザが自分のサイトから、スクリプト、カスケードスタイルシート、メディアファイルなどの他のファイルの参照を含む単一の Web ページを要求した場合、統計ユーティリティはこれらのファイルの参照を、自分の Web ページを閲覧したかのように報告します。このため、デフォルトの設定では、利用量の統計は正確性を欠くことになります。

これに対応するため、次のような操作が可能です。

- 上記のような内部参照、および他のサイトからの参照を隠す。
- 複数のサイトからの参照をグループ化し、単一の場所から参照されたかのように見せかける。
- ダイレクトリクエストを隠す。ユーザがブラウザに URL を入力した自分のサイトにアクセスした場合、ダイレクトリクエストが自分の Web サーバに送信されず。

自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示

内部参照および他のサイトからの参照を隠すには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [レポート] アイコンをクリックします。
- 3 [Web統計プリファレンス] アイコンをクリックします。
- 4 [エントリの非表示] アイコンをクリックします。
- 5 [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[リファラ] 値を選択したままにしておきます。
- 6 [リファラ] フィールドに、Web統計レポートにリファラを表示する必要のないドメイン名を入力します。
[*] ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。
- 7 [OK] をクリックします。

参照を表示するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [レポート] アイコンをクリックします。
- 3 [Web統計プリファレンス] アイコンをクリックします。非表示のエント리가すべてリストに表示されます。
- 4 表示するエントリに対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。
- 5 操作を確認して [OK] をクリックします。

他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除

特定のサイトからの参照をグループ化するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [レポート] アイコンをクリックします。
- 3 [Web統計プリファレンス] アイコンをクリックします。
- 4 [リファラのグループ化] タブをクリックします。
- 5 [リファラのグループ化] アイコンをクリックします。
- 6 特定のサイトのすべてのリファラに表示するグループ名を入力します。
- 7 [リファラ] 入力ボックスに、すべてのリファラをグループ化するサイト（ドメイン名）を指定します。
「*」ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。
- 8 [OK] をクリックします。

特定のサイトからの参照をグループ解除するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [レポート] アイコンをクリックします。
- 3 [Web統計プリファレンス] アイコンをクリックします。
- 4 [リファラのグループ化] タブをクリックします。すべてのリファラグループ名がリストに表示されます。
- 5 必要なグループ名に対応するチェックボックスを選択し、**✕** [選択対象を削除] をクリックします。
- 6 操作を確認して [OK] をクリックします。

ダイレクトリクエストの表示と非表示

ダイレクトリクエストを非表示にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [レポート] アイコンをクリックします。
- 3 [Web統計プリファレンス] アイコンをクリックします。
- 4 [エントリの非表示] アイコンをクリックします。
- 5 [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[ダイレクトリクエスト] 値を選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

ダイレクトリクエストを表示するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [レポート] アイコンをクリックします。
- 3 [Web統計プリファレンス] アイコンをクリックします。非表示のエントリがすべてリストに表示されます。
- 4 [ダイレクトリクエスト] に対応するチェックボックスを選択し、**×**[選択対象を削除] をクリックします。
- 5 操作を確認して [OK] をクリックします。

レポート生成とメールによる配信の自動化

➤ **アカウントの連結レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。**


- 1 ホームページで [レポート] をクリックします。
- 2 [レポート送信] をクリックします。
- 3 [送信スケジュールの追加] をクリックします。
- 4 システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[送信先] ドロップダウンメニューから [クライアント] の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[指定したメールアドレス] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。
- 5 [送信頻度] ドロップダウンメニューから、送信間隔を選択します。
レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。
- 6 [OK] をクリックします。

➤

➤ **アカウントステータスレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページで [レポート] をクリックします。
- 2 [レポート送信] をクリックします。
- 3 [頻度] 列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
- 4 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。

➤ **アカウントステータスレポートの受信を停止するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページで [レポート] をクリックします。
- 2 [レポート送信] をクリックします。
- 3 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

➤

➤ **特定のドメインやWeb サイトに関する詳細レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [レポート] をクリックします。

- 3 [レポート送信] をクリックします。
 - 4 [送信スケジュールの追加] をクリックします。
 - 5 システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、
[送信先] ドロップダウンメニューから [クライアント] の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[指定したメールアドレス] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。
 - 6 [送信頻度] ドロップダウンメニューから、送信間隔を選択します。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。
 - 7 [OK] をクリックします。
-
- **詳細なドメインやWeb サイトレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [レポート] をクリックします。
 - 3 [レポート送信] をクリックします。
 - 4 [頻度] 列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - 5 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。
-
- **アカウントステータスレポートの受信を停止するには、以下を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [レポート] をクリックします。
 - 3 [レポート送信] をクリックします。
 - 4 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、**✗** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。



ログファイルの表示とログファイルの再利用の設定

Web サーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。これらのログファイルをコンピュータにダウンロードして、サードパーティ製の統計ユーティリティで処理したり、Web サーバをデバッグするためにログファイルのコンテンツを調べることができます。

➤ これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [ファイルマネージャ] アイコンをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [ログローテーション] をクリックします。
- 4 [ツール] グループの [有効化] をクリックします。 [無効化] しか表示されない場合、ログの再利用がすでに有効になっています。
- 5 ログファイルを再利用する時期、およびサーバに格納する各ログファイルのインスタンス数を指定します。 ログファイルを圧縮するか、処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
- 6 [OK] をクリックします。

➤ ログファイルのコンテンツを表示する、またはコンピュータにダウンロードするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [ログマネージャ] をクリックします。 ログファイルのリストが表示されます。
 - ログファイルの表示する行数を、最後から数えた行数で指定し、[選択設定] グループの入力ボックスに数字を入力します。
 - ログファイルのコンテンツを表示するには、ファイル名をクリックします。
 - コンピュータにファイルをダウンロードするには、必要なファイルに対応するアイコンをクリックします。
 - サーバから処理済みのログファイルを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

データのバックアップと復元

最新バージョンのバックアップユーティリティおよび復元ユーティリティをコントロールパネルにインストールしている場合、次の作業が可能です。

ドメインを含むアカウントのバックアップ。 バックアップアーカイブには、すべてのコントロールパネル設定や、アカウントおよびドメイン（Web サイト）関連のデータが含まれます。

個々のドメイン（Web サイト）をバックアップ。 バックアップアーカイブには、ドメイン管理者アカウントやドメイン（Web サイト）やメールサービス（メールボックスや Horde Turba アドレスブック連絡先一覧、アンチスパムやアンチウィルスの設定など）関連のすべてのデータが含まれます。

バックアップのスケジュール。 バックアップのスケジューリングはアカウントとドメインの両方に対して行うことができます。

バックアップアーカイブからデータを復元

注（ホスティングリセラーへ）：バックアップ機能および復元機能の使用権限が付与された顧客（ドメイン管理者）は、コントロールパネルから独自のアカウント設定および Web サイトをバックアップし、復元することができます。顧客のホームページにバックアップリポジトリへのショートカットが表示されます（[ホーム]>[バックアップ]）。

FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定

バックアップファイルの保存に FTP サーバを使用する場合はコントロールパネルを適切にセットアップする必要があります。

- 1 必要なリポジトリへ移動してください。
 - アカントレベルのリポジトリには、[ホーム] > [バックアップ] > [FTP リポジトリ] > [FTP アカウントプロパティ] に進みます。
 - ドメインレベルのリポジトリには、[ドメイン名] > [バックアップ] > [FTP リポジトリ] > [FTP アカウントプロパティ] に進みます。
- 2 以下のプロパティを指定してください。
 - FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名
 - バックアップファイルを保存したいサーバのディレクトリ

- FTP アカウントにアクセスするユーザ名とパスワード
- 3 [OK] をクリックします。

ドメインを含むアカウントのバックアップ

- **ドメインを含むアカウントのバックアップを作成するには以下を実行します。**
- 1 ホームページで [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
 - 2 バックアップファイルをFTPサーバに保管したい場合は、まだFTPサーバの宛先アドレスを指定していなければ [FTPリポジトリ] タブをクリックして [FTPアカウントプロパティ] をクリックして指定してください（「FTPリポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定」『ページを参照103』セクションを参照してください）。
 - 3 [ツール]グループの [今すぐバックアップ] アイコンをクリックします。
 - 4 バックアップファイル名を指定し、バックアップファイルの説明を入力します。
 - 5 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
 - 6 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - 7 アカウントの設定を保存するには、[クライアント情報のバックアップ] チェックボックスをクリックします。
 - 8 バックアップするドメインを選択します。
 - 個々のドメインをバックアップするには、ドメインのリストで対応するチェックボックスを選択します。
 - 全てのドメインをバックアップするには、ドメインのリストの右上にあるチェックボックスを選択します。
 - 9 [今すぐバックアップ] をクリックします。
 - 10 バックアップが開始し、進行状況が表示されます。
 - 画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。
 - バックアップをキャンセルするには、[キャンセル] をクリックして [OK] をクリックしキャンセルされたかどうかを確認してください。
 - 11 バックアップが完了するとバックアップ結果がウィンドウに表示され、もしエラーが起こればエラーも一緒に表示されます。 [OK] をクリックします。

バックアップファイルは選択したレポジトリに保存され、FTP サーバもしくは[ホーム] > [バックアップ] で表示される場所からアクセスできます。

個別ドメイン（Web サイト）のバックアップ

ドメイン（Web サイト）のバックアップを作成するには以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ドメイン] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 3 バックアップファイルをFTPサーバに保管したい場合は、まだFTPサーバの宛先アドレスを指定していなければ [FTPリポジトリ] タブをクリックして [FTPアカウントプロパティ] をクリックして指定してください。
- 4 [ツール] グループの [今すぐバックアップ] アイコンをクリックします。
- 5 バックアップファイル名を指定し、バックアップファイルの説明を入力します。
- 6 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
- 7 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- 8 [今すぐバックアップ] をクリックします。
- 9 バックアップが開始し、進行状況が表示されます。
 - 画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。
 - バックアップをキャンセルするには、[キャンセル] をクリックして [OK] をクリックしキャンセルされたかどうかを確認してください。
- 10 バックアップが完了するとバックアップ結果がウィンドウに表示され、もしエラーが起こればエラーも一緒に表示されます。 [OK] をクリックします。

バックアップファイルは選択したレポジトリに保存され、FTP サーバまたは [ホーム] > [ドメイン名] > [バックアップ] で表示される場所からアクセスできます。

バックアップのスケジューリング

アカウントおよびサイトのバックアップを定期的を作成するには以下を実行します。

- 1 ホームページで [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 2 [ツール] グループの [バックアップのスケジューリング] アイコンをクリックします。

- 3 バックアップを実行する日時および間隔を指定します。
- 4 バックアップファイルの再利用を有効にするには、**【無制限】**チェックボックスを解除し、リポジトリの最大許容ファイル数を入力します。
この制限に達した場合、最も古いバックアップファイルが削除されます。
- 5 バックアップファイル名の先頭の記号の組み合わせを指定します。
この指定により、バックアップファイルを区別しやすくなります。
- 6 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- 7 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
- 8 ユーザアカウント設定を保存するには、**【クライアントの個人情報とアカウントの詳細をバックアップ】**チェックボックスを選択します。
- 9 バックアップするドメインを選択します。
 - 全てのドメインをバックアップするには、ドメインのリストの左上にあるチェックボックスを選択します。
 - 個々のドメインをバックアップするには、ドメインのリストで対応するチェックボックスを選択します。
- 10 **【ツール】**グループの**【有効化】**アイコンをクリックします。
- 11 **【OK】** をクリックします。

単一ドメイン（Web サイト）のバックアップをスケジュールするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 **【ツール】**グループの**【バックアップ】**アイコンをクリックします。
- 3 **【ツール】**グループの**【バックアップのスケジュールリング】**アイコンをクリックします。
- 4 バックアップを実行する日時および間隔を指定します。
- 5 バックアップファイルの再利用を有効にするには、**【無制限】**チェックボックスを解除し、リポジトリの最大許容ファイル数を入力します。
この制限に達した場合、最も古いバックアップファイルが削除されます。
- 6 バックアップファイル名の先頭の記号の組み合わせを指定します。
この指定により、バックアップファイルを区別しやすくなります。
- 7 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- 8 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。

- 9 [ツール] グループの [有効化] アイコンをクリックします。
- 10 [OK] をクリックします。

バックアップアーカイブからのデータの復元

ドメインを含むアカウントを復元するには以下を実行します。

- 1 ホームページで [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 2 FTPサーバに保存されているファイルからデータを復元するには [FTPリポジトリ] タブをクリックします。
- 3 必要なバックアップファイル名をクリックします。
- 4 [クライアントの選択設定およびアカウントの詳細を復元する] チェックボックスを選択します。
- 5 復元したいドメインを選択します。
- 6 [次へ>>] をクリックします。

アカウントまたはドメインのいずれかに、バックアップに指定されていない他の IP アドレスまたはデータベースサーバが割り当てられている場合、新規に使用する IP アドレスおよびデータベースサーバを選択して、衝突を解決するように要求されます。 [次へ>>] をクリックします。

- 7 復元が始まり、その進行状況が表示されます。
 - 画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。
 - 復元をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックして [OK] をクリックしキャンセルされたかどうかを確認してください。
- 8 復元が完了するとバックアップ結果がウィンドウに表示され、もしエラーが起こればエラーも一緒に表示されます。 [OK] をクリックします。

ドメイン (Web サイト) を復元するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 3 FTPサーバに保存されているファイルからデータを復元するには [FTPリポジトリ] タブをクリックします。
- 4 必要なバックアップファイル名をクリックします。
- 5 [今すぐ復元] をクリックします。
 - 画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。

- 復元をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックして [OK] をクリックしキャンセルされたかどうかを確認してください。
- 6 復元が完了するとバックアップ結果がウィンドウに表示され、もしエラーが起こればエラーも一緒に表示されます。 [OK] をクリックします。

バックアップファイルレポジトリの維持

このセクションでは、以下に関して説明します。

- 他のコンピュータに保存されているバックアップファイルのアップロード。
- 他のコンピュータへのバックアップファイルのダウンロード。
- バックアップリポジトリからの冗長バックアップファイルの削除。

バックアップファイルのサーバへのアップロード


バックアップファイルをコントロールパネルでバックアップリポジトリにアップロードするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 3 [ファイルをローカルリポジトリにアップロード] をクリックします。
- 4 [参照] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリにアップロードされます。

サーバからのバックアップファイルのダウンロード

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには以下を実行してください。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ツール] グループの [バックアップ] をクリックします。
- 3 ダウンロードするバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
- 4 バックアップを保存する場所を選択し、 [保存] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

サーバからのバックアップファイルの削除

- バックアップファイルをバックアップリポジトリから削除するには以下を実行してください。
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [ツール] グループの [バックアップ] をクリックします。
 - 3 削除したいバックアップファイルに対応するチェックボックスを選びます。
 - 4 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 5 削除を確認して [OK] をクリックします。

章 7

メールサービスの使用

1つのメールアカウントで様々なメールサービスを利用できます。例えば、標準的なメールボックスとしてメールを受取ったり、多数の宛先へ転送したり、送信者へ自動的に応答するようなメールアドレスを持つことができます。

外部メールサーバを持つ特定のドメイン下のメールボックスを提供するには以下を実行してください。

- 1 [ホーム] > [ドメイン名] > [DNS設定] に進みます。
- 2 [レコードタイプ] カラムでMXレコードを指定し、左側の [ホスト] カラムでそれぞれのリンクをクリックします。
- 3 [メールエクスチェンジャを入力]ボックスに外部メールサーバのホスト名（例えばmailserver.example.com）を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [上位レベルへ] をクリックしてドメイン管理画面に戻ります。
- 6 [メール] をクリックします。
- 7 [無効化] をクリックします。

メールボックスの作成

メールアドレスをyourname@domain.comなどの特定のサイトに関連付ける場合、メールボックスを作成する必要があります。このためには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] をクリックします。
- 3 [新しいメールアカウントを追加] をクリックします。
- 4 ドメイン名が @ 記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。

ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 5 メールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
- 6 チェックマークが [メールボックス] チェックボックスに表示されることを確認して下さい。
- 7 [OK] をクリックします。

これでプロバイダのサーバにメールボックスが作成されました。新しいメールボックスを通じてメールを送受信できるようにお気に入りのメールプログラムを設定できます。他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。

➤ **他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 [新しいメールアカウントを追加] をクリックします。
- 4 ドメイン名が @ 記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。

ドットで区切ったユーザの名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 5 メールボックスのオーナーがメールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
- 6 チェックマークが [メールボックス] チェックボックスに表示されることを確認して下さい。

- 7 必要に応じて、このメールボックスで使用できるディスク容量を制限します。この場合、[メールボックスクォータ]で[サイズを入力]オプションを選択し、指定する値をキロバイトで入力します。
- 8 メールボックスオーナーがメールボックス管理パネルを使用して自分のメールボックスを管理するのを許可する場合は、[コントロールパネルアクセス]チェックボックスを選択し、ユーザのコントロールパネルの言語を指定します。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 メールボックスオーナーがスパムフィルタとアンチウイルスを設定し使用するのを許可する場合は、[権限] をクリックしてそれぞれのチェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

これでメールボックスが作成され、Pleskに専用のメール管理パネルが設定されました。管理パネルに入力する場合、メールボックスオーナーは URL <https://your-domain.com:8443> を閲覧し、[ログイン] ボックスにメールアドレスを入力し、[パスワード] ボックスにメールボックスのパスワードを入力してから、[ログイン] をクリックします。

メールボックスからメールを取得するためのメールプログラムの設定

➤ **Microsoft Outlook Express** を設定するには、以下を実行します。

- 1 Microsoft Outlook Expressを開きます。
- 2 [ツール] > [アカウント] に進みます。
- 3 [メール] タブをクリックして、メールアカウントのリストを開きます。
- 4 [追加>] ボタンをクリックし、[メール...] 項目を選択します。
- 5 送信する全てのメッセージに表示される名前を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 6 Pleskで作成したメールアドレス（例：your.name@your-domain.com）を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 7 受信メールサーバのプロトコルを選択します。
- 8 メールドメイン名を受信および発信メールサーバとして指定し（例：mail.your-domain.com）、[次へ>] をクリックします。
- 9 [アカウント名] ボックスにメールアドレスを入力します（例：your.name@your-domain.com）。
- 10 パスワードを入力します。これはPleskでメールボックスを作成する際に指定したパスワードです。
- 11 メールプログラムがメールサーバに接続し新規メールをチェックするたびに、パスワードの入力が要求されないようにする場合は、[パスワードを記憶する] ボックスにチェックを付け、[次へ>] をクリックします。
- 12 メールプログラムの設定を終了する場合は、[完了] をクリックします。

➤ **Mozilla Thunderbird** を設定するには、以下を実行します。

- 1 Mozilla Thunderbirdを開きます。
- 2 [ツール] > [アカウント設定...] に進みます。
- 3 [アカウントを追加] をクリックします。アカウントウィザードが開きます。
- 4 [メールアカウント] オプションを選択したまま、[次へ>] をクリックします。
- 5 送信するすべてのメッセージに表示される名前を入力します。
- 6 Pleskで作成したメールアドレスを入力します。

例えば、your.name@your-domain.comのように入力し、[次へ>] をクリックします。

- 7 受信メールサーバのプロトコルを選択します。
- 8 メールドメイン名を受信および発信メールサーバとして指定し（例：mail.your-domain.com）、[次へ>] をクリックします。
- 9 受信ユーザ名ボックスで、自分の完全なメールアドレス（例：your.name@your-domain.com）を指定し、[次へ>] をクリックします。
- 10 このアカウントを参照する際の名前（例：Work Account）を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 11 入力した情報が正しいことを確認し、[完了] をクリックします。
- 12 [OK] をクリックして、アカウント設定ウィザードを閉じます。

Web ブラウザからのメールへのアクセス

自宅やオフィスのコンピュータから離れている場合でも、自分のメールを読み出し、新しいメッセージを作成することができます。この場合、まずコントロールパネルに統合されている Horde Web メールインターフェースにアクセスできるようにする必要があります。これで、インターネット接続および Web ブラウザがインストールされているコンピュータや WAP が有効な携帯電話や携帯用コンピュータ (PDA) があればメールを使って作業をすることができます。

➤ **Web メールインターフェースへのアクセスを可能にするには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] アイコンをクリックします。
- 3 [選択設定] をクリックします。
- 4 [Webメール] チェックボックスを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

注：ドメインに対する Web メールの有効化と無効化には、DNS ゾーンでの変更が伴うため、実際には、DNS 登録メカニズムの速度により Web メールを有効化および無効化する場合は一定の遅延が発生します。

➤ **Web メールからメールボックスにアクセスするには、以下を実行します。**

- 1 Webブラウザ (携帯用デバイスで作業しているのであればWAPブラウザ) を開いて以下のURLを入力します。
<http://webmail.your-domain.com>を入力します。このyour-domain.comには使用しているドメインの名称を入力します。ENTERを押します。Webメールログイン画面が開きます。
- 2 メールボックスを作成する際に指定したユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

スパムからのメールボックスの保護

不要な通信からメールボックスを保護するには、インターネットフォーラムにメールアドレスを発行せずに、SpamAssassin ソフトウェア内のサーバ側スパムフィルタを有効にします。

メールアドレスを発行する必要がある場合、プライマリメールアドレスにディスポーザブルメールアドレス、すなわちメールエイリアスを作成し、これを代わりに発行します。メールエイリアスに送信されたメッセージはすべて、メールボックスに到着します。スパムが到着し始めたら、そのエイリアスを削除し別のエイリアスを作成します。別のドメインまたは別のメールサーバにメールボックスを保有している場合、ディスポーザブルメールフォワードを設定できます。

スパムメールを受け取ったら読まずに一度に削除することをお奨めします。読んだとしても、返信したり「配信停止にはここをクリックしてください」といった URL をクリックしたりしないでください。返信したり URL をクリックしたりするとメールアドレスがスパマーの知るところとなり、更に多くのスパムを受け取ることになってしまいます。

補足的ディスポーザブルメールアドレス（メールエイリアス）の設定

➤ **メールボックスにメールエイリアスを設定するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [新しいメールエイリアスを追加] をクリックします。
- 5 エイリアスに追加する名前を入力し、[OK] をクリックします。

追加したメールアドレス（メールエイリアス）宛てのメッセージは、メールボックスに到着します。現在使用しているメールエイリアスのリストはドメインのメールアカウント一覧を表示するページで [エイリアスの表示] をクリックすると表示されます。

➤ **メールボックスからメールエイリアスを削除するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 削除するエイリアスに対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。

スパムフィルタのセットアップ

削除できない、または削除する必要のないメールに宛てた不要な通信を受け取る場合、メールボックスにスパムフィルタを設定することを検討して下さい。このためには、以下を実行します。

- プロバイダが Plesk サーバに SpamAssassin スパムフィルタをインストールしている場合は、それを有効にします。
- メールプログラムの操作を自宅とオフィスのどちらのコンピュータで行うかを選択して、スパムフィルタリングソフトウェアをインストールします。

スパムフィルタの有効化

メールボックスのスパムフィルタを有効にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 5 必要に応じて以下の設定を行います。

- **スパムとしてみなす数** この設定はスパムフィルタの感度を調整します。SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名行に対して複数の異なるテストを実行します。その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高くなるほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージの特定は 8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージが全てスパムと分類されるようにフィルタ感度が設定されます。

現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、[スパムとしてみなす数] ボックスの値を 6 などに下げてください。

スパムフィルタでジャンクとみなされたためにメールを受信できない場合、[スパムとしてみなす数] ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてください。

注： スпамフィルタの精度をさらに高めるために、受信するメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングできます（次のセクションの、「スパム検出の精度を高めるための指示」を参照してください）。

- **スパムメッセージの処理方法。** スпамフィルタの精度を確実なものにする場合、スパムと認識された全ての受信メッセージを自動的に削除するようにフィルタを設定できます。この場合、[削除] オプションを選択します。ローカルコンピュータのソフトウェアでメールをフィルタリングする場合は、[スパムとしてマークしてメールボックスに残す] オプションを選択し、スパムとして認識されたメッセージをスパムフィルタでマークする方法を指定します。
「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダーがデフォルトではメッセージソースに付加され、またスパムフィルタにより件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、[スパムと認識された各メッセージの件名の最初に以下のテキストを追加] ボックスに入力してください。スパムフィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白のままにしてください。件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに `_SCORE_` と入力してください。
- 6 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、[ブラックリスト] タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。





- ブラックリストに項目を追加するには、**【アドレスを追加】** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**【参照】** で指定し**【OK】** をクリックします。もしくは、**【リストから】** オプションを選択し**【メールアドレス】** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 [address@spammers.net](#), [user?@spammers.net](#), [*@spammers.net](#))。 [*@spammers.net](#) を指定すると [spammers.net](#) というドメインからの全てのメールをブロックします。追加したエントリを保存するには、**【OK】** をクリックして追加を確認して、もう一度**【OK】** をクリックしてください。
 - ブラックリストからエントリを削除するには、**【ブラックリスト】** タブからエントリを選択し**【選択対象を削除】** をクリックします。削除を確認して**【OK】** をクリックします。
- 7 特定の送信者からのメールを確実に受信するには、**【ホワイトリスト】** タブをクリックしてスパムフィルタのホワイトリストにそのメールアドレスまたは完全なドメイン名を追加します。
- ホワイトリストにエントリを追加するには、**【アドレスの追加】** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**【参照】** で指定し**【OK】** をクリックします。もしくは、**【リストから】** オプションを選択し**【メールアドレス】** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 [address@mycompany.net](#), [user?@mycompany.net](#), [*@mycompany.net](#))。 [*@mycompany.net](#) を指定すると [mycompany.net](#) というドメインのメールアドレスが全てホワイトリストに追加されます。追加したエントリを保存するには、**【OK】** をクリックして追加を確認して、もう一度**【OK】** をクリックします。
 - ホワイトリストからエントリを削除するには、**【ホワイトリスト】** タブからエントリを選択し**【選択対象を削除】** をクリックします。削除を確認して**【OK】** をクリックします。
- 8 スпамフィルタの設定が終了したら、**【スパムフィルタの有効化】** アイコンをクリックして**【OK】** をクリックします。

スパム検出の精度の改善

スパムの精度は、メールボックス内に保存されたメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングすることで改善できます。

スパム検出の精度を改善するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 5 [トレーニング] タブをクリックします。

メールボックス内のすべてのメールメッセージが、画面に表示されます。各メッセージの左の列にアイコンが表示されます。このアイコンから、メッセージが  スパムと認識されるか、 非スパムと認識されるか、 認識不可であるかが分かります。メッセージでスパムフィルタのトレーニングを実施し、結果をスパムフィルタのデータベースに記録している場合、右側の列にアイコン  が表示されます。

- 6 スパムフィルタをトレーニングします。

通常は、件名行と送信者名を調べるとメッセージがスパムかどうかわかります。件名行と送信者名から手がかりが得られない場合、メールプログラムまたは Web メールインターフェースを使用してメッセージ内を調べてみてください。

- メッセージにスパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM です」をクリックします。
 - メッセージに非スパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM ではありません」をクリックします。
 - スパムフィルタのデータベースから特定のメッセージに関する情報を削除するには、対応するチェックボックスを選択し、「そのままにしておく」をクリックします。
- 7 トレーニングが終了したら、メールプログラムまたは Web メールインターフェースを使用して、メールボックスからスパムメールを削除できます。

スパムフィルタのデータベースの消去

間違ってスパムフィルタに大量のスパムメールを非スパムと学習させた場合、またはその逆の場合、スパムフィルタの学習結果が間違っただけのものになる可能性があります。スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。

スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 5 [トレーニング] タブをクリックします。
- 6 [クリア] ボタンをクリックします。

スパムフィルタの無効化

メールボックスのスパムフィルタを無効にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 5 [スパムフィルタリングを無効にする] アイコンをクリックし、[OK] をクリックします。

ウイルスからのメールボックスの保護

システムをウイルスから防御する場合、疑わしいメールの添付ファイルを開かず、サーバ側のアンチウイルス保護サービスがホスティング会社から提供されている場合これを有効にし、ファイアウォールとアンチウイルスソフトウェアがパーソナルコンピュータにインストールされていることを確認します。そしてオペレーティングシステムを常に最新の状態に維持し、適宜、セキュリティホットフィックスおよびパッチをインストールします。

アンチウイルス保護の有効化

➤ メールボックスのアンチウイルス保護を有効にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [アンチウイルス] アイコンをクリックします。
- 5 使用するメールスキャンモードを選択します。受信メール、発信メール、または送受信メールに対してスキャンを有効にできます。

注：サーバで Kaspersky アンチウイルスを使用している場合、スキャン設定の調整に [スキャン設定] アイコンを使用できます。スキャン設定に関する情報を表示するには、ナビゲーションペインの [ヘルプ] ショートカットをクリックしてください。

- 6 [OK] をクリックします。

アンチウイルス保護の無効化

➤ メールボックスのアンチウイルス保護を無効にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] アイコンをクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [アンチウイルス] アイコンをクリックします。
- 5 [ウイルスをスキャンしない] オプションを選択して [OK] をクリックします。

メールボックスの保留と保留解除

➤ **メールボックスのメールサービスを一時的に保留にするには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 メールサービスを保留にするメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [メールボックス] をクリックします。
- 5 [メールボックス] チェックボックスをクリアにします。
- 6 [OK] をクリックします。

➤ **メールボックスのメールサービスを再開するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 メールサービスを再開にするメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [メールボックス] をクリックします。
- 5 [メールボックス] チェックボックスを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを一時的に保留にするには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [無効化] をクリックします。

➤ **ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを再開するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 [ツール] グループの [有効化] をクリックします。

メールボックスの削除

- **メールボックスを削除するには、以下を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [メール] をクリックします。
 - 3 削除するメールボックスの対応するチェックボックスを選択します。
 - 4 **✕ [選択対象を削除]** をクリックします。
 - 5 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスのオフ切り替え

既存のメールアカウントをメールフォワーダまたはメーリングリストとして使用する予定がある場合、メールボックスサービスを無効にすることをお奨めします。メールボックスですべての受信メッセージを保存し、転送後も自動的に削除されないようにします。従って、アカウントで「メールボックス + メールフォワーダ」の設定を選択する場合は、必ず、時々メールボックスをクリーンアップしてください。

- **メールボックスの全てのメッセージを破棄するアカウントのメールボックスサービスを無効にするには、以下を実行します。**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 対象となるメールアドレスをクリックします。
 - 4 [ツール] グループの [メールボックス] アイコンをクリックします。
 - 5 [メールボックス] チェックボックスのチェックを外します。
 - 6 [OK] をクリックします。

単一メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 [新しいメールアカウントを追加] をクリックします。
- 4 [メールアカウント名] の横のメールフォワーダに該当する名前を指定します。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 5 [メールボックス] および [コントロールパネルアクセス] チェックボックスを解除します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 8 [リダイレクト] チェックボックスを選択します。
- 9 メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
- 10 [OK] をクリックします。

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールをスパムフィルタに通し、別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 [新しいメールアカウントを追加] をクリックします。
- 4 [メールアカウント名] の横のフォワーダのメールアドレスに該当する名前を指定します。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 5 [メールボックス] チェックボックスが選択されていることを確認してください。

メールボックスを選択していない場合、スパムフィルタリングを適用できません。

- 6 メールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。メールボックスの中身は適宜整理してください。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 9 [リダイレクト] チェックボックスを選択します。
- 10 メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
- 11 [OK] をクリックします。

メールフォワーダの保留と保留解除

➤ **メールフォワーダを保留にするには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 転送サービスを保留にするメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 5 [リダイレクト] チェックボックスを解除します。
- 6 [OK] をクリックします。

➤ **メールフォワーダの保留を解除するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 転送サービスを再開するメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [リダイレクト] をクリックします。
- 5 [リダイレクト] チェックボックスを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

複数メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを複数の別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 対象となるメールアドレスをクリックします。
- 4 [メールグループ] をクリックします。
- 5 [新しいメンバーを追加] をクリックします。

複数のメールアドレスへのメール転送を有効にする前に、1つ以上のメールアドレスを追加する必要があります。

- 6 [メールアドレス] 入力フィールドに必要な外部メールアドレスを入力するか、チェックボックスでリストから1つまたは複数のメールアドレスを選択する、あるいは両方の作業を行います。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [有効化] をクリックします。

受信者アドレスの追加と削除

- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、外部メールアドレスを追加するには、以下を実行してください。**
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 対象となるメールアドレスをクリックします。
 - 4 [メールグループ] をクリックします。
 - 5 [新しいメンバーを追加] をクリックします。
 - 6 [メールアドレス] 入力フィールドに、該当する外部メールアドレスを入力します。
 - 7 [OK] をクリックします。
- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、外部メールアドレスを削除するには、以下を実行してください。**
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 対象となるメールアドレスをクリックします。
 - 4 [メールグループ] をクリックします。
 - 5 リストから削除したいメールアドレスのチェックボックスを選択します。
 - 6 **✕** [選択対象を削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。
- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、サーバに登録されたメールアドレスを追加するには、以下を実行します。**
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 更新リストに追加するメールアカウントをクリックします。
 - 4 [グループ] をクリックします。
 - 5 [利用可能なメールグループ] リストで、該当する複数のメールフォワードを選択します。
 - 6 [追加 >>] をクリックします。
 - 7 [OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス追加の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストに追加することができます。

➤ 転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、サーバに登録されたメールアドレスを削除するには、以下を実行してください。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 更新リストから削除するメールアドレスをクリックします。
- 4 [グループ] をクリックします。
- 5 [次のメールグループのメンバー] リストで、該当する複数のメールフォワーダを選択します。
- 6 [<<削除] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス削除の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストから削除することができます。


複数メールアドレスへのメール転送の無効化

➤ 複数メールアドレスへのメール転送をオフに切り替えるには以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 対象となるメールアドレスをクリックします。
- 4 [メールグループ] をクリックします。
- 5 [無効化] をクリックします。

メールフォワーダの削除

➤ メールフォワーダを削除するには、以下を実行します。


- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 削除するメールフォワーダの対応するチェックボックスを選択します。
- 4  [選択対象を削除] をクリックします。
- 5 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

自動応答の設定

休暇に入る予定があり、しばらくの間メールをチェックできない場合、アドレスにメールを送信した送信者に対して、自動的に休暇通知が送信されるように設定しておくことができます。これは自動応答とも呼ばれる、自動応答機能を使用して行います。休暇通知以外に、組織では自動応答を使用して、オーダーや技術サポートの受領と、これらの迅速な処理を顧客に通知することができます。自動応答には、プレーンテキストまたは HTML 形式で事前に作成されたメッセージを含めること、また添付ファイルを含めることもできます。

メールボックスの自動応答を設定するには、以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] アイコンをクリックします。
- 3 自動応答を設定するメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [自動応答] アイコンをクリックします。
- 5 自動応答にファイルを添付する予定がない場合は、手順6に進みます。自動応答にファイルを添付するには、以下を実行します。
 1. [ツール] グループの [ファイル添付] アイコンをクリックします。
 2. [参照] をクリックしてファイルを探し、選択した後 [ファイル送信] をクリックします。

ファイルが添付ファイル保存に追加され、このファイルを別の複数の自動応答に追加できるようになります。
 3. 終了したら  [上へ] をクリックし、次の手順に進みます。
- 6 [ツール] グループの [新しい自動応答を追加] アイコンをクリックします。
- 7 自動応答を設定します。
 1. [自動応答名] ボックスに、この自動応答の名前を入力します。

例えば、休暇通知などです。
 2. 不在の間、受信メールを別のメールアドレスに転送する場合、
[自動応答の後、オリジナルメッセージを指定されたメールアドレスに転送する] ボックスにメールアドレスを指定します。

3. 受信するメールメッセージへの応答に、この自動応答を送信する場合は、**[条件]** グループで **[常に返信する]** オプションを選択した状態にします。メッセージテキストまたは件名行に特定の語句を含むメールメッセージにのみ自動的に応答する場合は、適切なオプションを選択し、入力ボックスに語句の組み合わせを入力します。
 4. デフォルトでは受信メールの件名が自動応答で送信するメッセージの件名に挿入されます。カスタムの件名を使用するには、**[応答]** 件名入力ボックスにカスタム件名を入力します。
 5. こちらから送信されたメッセージが自動応答であると相手側が想定できないため、相手側が自動応答に対して返答する場合があります。このため、**[返信アドレス]** として自分のメールアドレスを指定する必要があります。
 6. 自動応答メッセージの形式（プレーンテキストまたはHTML）と、文字のエンコード方式（UTF-8を推奨）を指定します。HTML自動応答メッセージにHTMLタグを使用する場合、**[HTML]** オプションを選択します。
 7. **[テキスト付き返信]** フィールドにメッセージを入力します。
 8. 必要に応じて、ファイルを添付します。この場合、**[添付ファイルを追加]** ボタンをクリックし、以前に添付保存にアップロードしていたファイルに対応するチェックボックスを選択し、**[OK]** をクリックします。添付ファイルを自動応答から削除するには、該当するチェックボックスを選択して **✗ [選択対象を削除]** をクリックします。
 9. 同じメールアドレスへの1日あたりの自動応答の数を制限するには、**[制限]** 内の各入力ボックスに上限数を入力します。
デフォルトでは同じメールアドレスに対する応答として 10 回/日の上限が設定されています。
 10. メールサーバの負荷を減らすために、自動応答が記憶する固有のアドレスの数を制限できます。それには、**[...件まで保存]** ボックスに上限数を入力します。
- 8 **[OK]** をクリックします。
- 9 **[ツール]** グループの **[有効化]** アイコンをクリックします。

自動応答の無効化

➤ **メールボックスの自動応答を無効にするには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 自動応答を無効にするメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [自動応答] をクリックします。
- 5 [無効化] をクリックします。

自動応答が無効になりました。自動応答の設定はコントロールパネルから削除されていないため、この自動応答を次に使用する必要が生じる場合、上記の手順を繰り返し、最後の手順で [有効化] をクリックします。

➤ **不要になった自動応答設定を削除するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 必要なメールアドレスをクリックします。
- 4 [ツール] グループの [自動応答] をクリックします。
- 5 設定名に対応するチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。

存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位の選択設定（メール転送）

誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、"this address no longer accepts mail（このアドレスはメールを受け取ることができません）"という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。


- デフォルトの通知が適切でないと思われる場合は変更する。
- このようなメールをすべて指定したメールアドレスに転送する。
- このようなメールを受け取らず、送信者に通知せずに拒否する。

この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名に送信される大量のスパムにより生じた、メールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。

➤ **存在しないユーザへのメールの処理に対するサイト単位の設定を行うには、以下を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [メール] をクリックします。
- 3 [選択設定] をクリックします。
- 4 必要なオプションを選択し、必要に応じて情報を指定します。
- 5 [OK] をクリックします。

複数のメールアドレスへの類似変更の同時処理の導入

- 複数のメールアドレスへの類似変更の同時処理を導入するには、以下を実行します。
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 設定を変更したいメールアドレスに対応するチェックボックスを選択します。
- 4  [一括操作] をクリックします。
- 5 必要に応じて、設定を調整して下さい。
 - [有効化] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを有効にします。
 - [無効化] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを無効にします。
 - 関連オプションを変更したくない場合は [変更しない] オプションを選択したままにします。
- 6 [OK] をクリックします。

メーリングリストの維持

顧客にオファーおよびプロモーションを配信する、ニューズレターを運営する、あるいはサイトの閲覧者に最新の更新について通知する場合、サイトにメーリングリストを設定し、ユーザをメーリングリストに登録するか、ユーザに登録を勧める必要があります。

メーリングリストは1度に多くのユーザへの宣伝ができるので便利です。メーリングリストには、情報やニューズレターを投稿する単一のメールアドレスの下にまとめられた、加入者のメールアドレスのリストが保存されています。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされたGNU Mailmanソフトウェアにより提供されません。

メーリングリストが使用できるかどうかを確認するには、プロバイダに確認するか、コントロールパネルでメーリングリストを探します。[ホーム] > [メール] に進み、[メーリングリスト] タブをクリックし、[新しいメーリングリストを追加] アイコンがカラー表示されているかどうかを確認します。

メーリングリストのセットアップ

メーリングリストをセットアップするには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 4 [ツール]グループの [有効化] アイコンをクリックし、サーバのMailmanソフトウェアを起動します。
- 5 [ツール] グループの [新しいメーリングリストを追加] アイコンをクリックします。
- 6 メーリングリストに必要な名前を指定します。

部署名、メーリングリストのトピック、その他のラテン記号テキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 7 ーリングリストの管理に使用するパスワードを指定します。
- 8 メーリングリスト管理者のメールアドレスを指定します。
- 9 [管理者にメーリングリストの作成を通知する] チェックボックスを選択したままにしておきます。


指定した管理者のメールアドレスでのメーリングリストの使用および維持に関する指示が表示されます。メッセージを記録用に保管しておいて下さい。

- 10 [OK] をクリックします。

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。登録された全てのユーザが受け取ります。

メーリングリストの設定

メーリングリストは、デフォルト設定で操作できます。しかしながら、モデレーションの有効化、投稿内容のフィルタリング、メッセージのアーカイブなどを実行できるように設定することができます。それには、コントロールパネルから以下を実行します。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 3 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 4 該当するメーリングリストのメールアドレスの横の  アイコンをクリックします。

ログイン画面が表示されます。

- 5 リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

または、メーリングリストの設定には、以下の方法でアクセスできます。

- 1 WebブラウザでURL
<http://lists.<your-domain.com>/mailman/admin/<listname>> を入力します。
<your-domain.com>は使用しているドメイン名、<listname>はメーリングリストの名前（すなわちメーリングリストのメールアドレスの @ 記号の左側の部分）です。
ログイン画面が表示されます。
- 2 リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

ユーザの登録と登録解除

- **メーリングリストにユーザを登録するには、以下を実行します。**
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 [メーリングリスト] タブをクリックします。
 - 4 メーリングリスト名をクリックします。
 - 5 [新しいメンバーを追加] をクリックします。
 - 6 登録者のメールアドレスを指定して下さい。
 - 7 [OK] をクリックします。

- **メーリングリストからユーザを登録解除するには、以下を実行します。**
 - 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 [メーリングリスト] タブをクリックします。
 - 4 メーリングリスト名をクリックします。
 - 5 ユーザのメールアドレスの左側のチェックボックスを選択します。
 - 6 **✗** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 7 削除を確認して [OK] をクリックします。

メーリングリストへの投稿

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。登録された全てのユーザが受け取ります。

メーリングリストの削除

- **サイトからメーリングリストを削除するには、以下を実行します**
- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
 - 2 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
 - 3 [メーリングリスト] タブをクリックします。
 - 4 削除するメールボックスの対応するチェックボックスを選択します。
 - 5 **✕ [選択対象を削除]** をクリックします。
 - 6 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

章 8

タスクのスケジューリング

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプトが実行されるタスクスケジューラをプロバイダのサーバで実行します。

タスクをスケジューリングするには

➤ **タスクをスケジューリングするには、以下の操作を実行します。**

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [スケジュール済みタスク] アイコンをクリックします。
- 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
- 4 [新しいタスクを追加] をクリックします。
- 5 コマンドを実行する時間を指定します。
 - 分 - 0~59 の値を入力
 - 時 - 0~23 の値を入力
 - 日 - 1~31 の値を入力
 - 月 - 1~12 の値を入力するか、ドロップダウンボックスから月を選択
 - 曜日 - 0~6 (日曜日が 0) の値を入力するか、ドロップダウンボックスから曜日を選択

UNIX クローンタブエントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、次の作業を実行できます。

- 複数の値をコンマ区切りで入力します。ハイフンで区切った 2 つの数字は、包括的範囲を意味します。例えば、ある月の 4 日、5 日、6 日、20 日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
- アスタリスクを挿入すると、そのフィールドに入力できるすべての値を指定できます。例えば、タスクを毎日実行するには、[日] テキストボックスに「*」と入力します。

N ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」の組み合わせを入力します。N はそのフィールドの適切な値です (分、時、日、月)。例えば、[分] フィールドに「*/15」を入力すると、15 分ごとに起動するようにタスクがスケジュールされます。

月および週は省略名 (Aug、Jul、Mon、Sat などの最初の 3 文字) で入力できます。ただし、省略名はコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することができません。

- 6 実行するコマンドを指定します。 [コマンド] 入力ボックスに入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

タスク実行の保留と再開

- **スケジューリングされたタスクの実行を一時的に保留するには以下を実行します。**
 - 1 ホームページで、ドメイン名をリストから選択します。
 - 2 [ホスティング] グループの [スケジュール済みタスク] をクリックします。
 - 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
 - 4 保留したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
 - 5 [有効化] チェックボックスを解除し、 [OK] をクリックします。

- **スケジューリングされたタスクを再開するには以下を実行します。**
 - 1 ホームページで、ドメイン名をリストから選択します。
 - 2 [ホスティング] グループの [スケジュール済みタスク] をクリックします。
 - 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
 - 4 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
 - 5 [有効化] チェックボックスを選択し、 [OK] をクリックします。

タスクのスケジューリング解除

- タスクのスケジューリングを解除するには、以下を実行してください。
- 1 ホームページで、ドメイン名をリストから選択します。
 - 2 [ホスティング] グループの [スケジュール済みタスク] をクリックします。
 - 3 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
 - 4 スケジューリングを解除したいタスクの左側のチェックボックスを選択します。
 - 5 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
 - 6 削除を確認して [OK] をクリックします。


章 9

コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニタリング

FTP サービスへの接続のモニタリング


➤ FTP を使用してサーバに接続しているユーザ名、そのユーザが作業しているディレクトリ名、およびサーバ間でアップロードまたはダウンロードを行っているファイル名を確認するには、以下を実行します。


- 1 ナビゲーションペイン内の [セッション] をクリックします。
- 2 [FTPセッション] タブをクリックします。自分も含めた全てのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。

タイプ セッションを確立したユーザのタイプ  コントロールパネルに登録していないユーザ

 匿名 FTP ユーザ

 ドメインまたは Web サイト管理者




 サブドメイン管理者

 Web ユーザ (個別のドメイン名を持たない個人 Web ページのオーナー)

- ステータス FTP 接続の現在のステータス
 - FTP ユーザログイン FTP アカウントへのアクセスに使用したログイン名
 - ドメイン名 FTP ユーザが現在接続しているドメイン
 - 現在のロケーション FTP ユーザが現在いるディレクトリ
 - ファイル名 操作中のファイル名
 - スピード 転送速度 (キロバイト)
 - 進捗 (%) パーセンテージで示されるファイル移行の進捗度
 - IP アドレス FTP アカウントにアクセスしている IP アドレス
 - ログイン時間 現在のユーザがログインしてからの経過時間
 - アイドル時間 FTP を使用してサーバに接続している間に、ユーザが何も作業を行っていない時間
- 3 FTPセッションのリストを更新するには [更新] をクリックします。

- 4 セッションを終わらせるには、該当するチェックボックスをチェックして、**×** [選択対象を削除] をクリックします。

コントロールパネルへの接続のモニタリング

- 現在コントロールパネルにログインしている顧客名を探すには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペイン内の [セッション] をクリックします。自分も含めた全てのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
 - **タイプ** セッションを確立したコントロールパネルユーザのタイプ
 -  クライアント
 -  ドメインまたは Web サイトオーナー
 -  メールボックスオーナー
 - **ログイン** ユーザがログインしたときのログイン名
 - **IP アドレス** コントロールパネルにアクセスした IP アドレス
 - **ログイン時間** ユーザがコントロールパネルにログインした日時
 - **アイドル時間** ユーザがログイン中にコントロールパネルで何も作業を行っていない時間
 - 2 ユーザセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
 - 3 ユーザセッションを終了するには、各チェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックし、削除を確認してから [OK] をクリックします。

章 10

ヘルプデスクを使用した顧客の問題 解決およびプロバイダへのサポート 要求

ホスティング会社がコントロールパネルにヘルプデスクを統合している場合は、それを使用して以下を実行することができます。

- 問題をプロバイダのテクニカルサポートスタッフへ報告する
- 顧客(Web サイトオーナー)から問題のレポートまたはサポート要求を受け取る

ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示

- ユーザからの新規チケットを確認したり、提出したチケットの状態を表示するには、以下を実行します。
- 1 ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。ご自身や顧客が提出した全てのチケットが一覧に表示され、次の補足情報が表示されます。
 - ID：投稿時にシステムによって割り当てられる ID 番号です
 - チケットのタイトル：チケット投稿者が入力した問題の概略です
 - チケットの状態：新規、再オープン、クローズ
 - 投稿者のタイプ：コントロールパネルに表示されるチケットの発信元のユーザアカウントまたはメールアドレス。クライアント、ドメイン管理者、コントロールパネルへのアクセス権を持つメールユーザ、またはメールでチケットを投稿したユーザ
 - 投稿者の名前：チケットの投稿者の名前、ドメインオーナーが投稿したチケットのドメイン名、またはメールで投稿されたチケットのメールアドレス
 - 更新日：チケットが更新(コメントの追加や状態の変更)された日
 - カテゴリ：チケットを関連付けるカテゴリ
 - 2 チケットの内容を表示するには、チケットIDまたはチケット件名をクリックします。

トラブルチケットへのコメントとクローズ

- **問題が解決された後、チケットをクローズする、またはコメントを投稿するには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。
- 2 作業を行うチケットを探し、その件名かID番号をクリックします。
- 3 チケットをクローズ、再オープンするには、またはチケットにコメントを投稿するには、[チケットイベント] ドロップダウンボックスから実行する作業を選択し、必要に応じて [新しいコメント] 入力フィールドに新しいコメントを入力します。
- 4 [OK] をクリックして情報を送信します。

サービスプロバイダへの問題レポートの提出

- **新規の問題レポートをサービスプロバイダに提出するには以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。
- 2 [ツール] グループの [新しいチケットの追加] をクリックします。
- 3 チケットの件名を入力し、関連するカテゴリを選択して問題の説明を入力してください。
- 4 [OK] をクリックします。

チケットはシステムを通してプロバイダに送信されます。問題が解決したらメールで通知が来ます。